

ハイビジョンLD / レーザーディスク プレーヤー

HLD-X9

取扱説明書

Hi-Vision System

MUSE / NTSC

LaserDisc

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。本機の機能を十分に発揮させて効果的にご利用いただくために、この取扱説明書を本機ご使用の前に最後までお読みください。

特に「安全上のご注意」は必ずお読みください。

お読みになった後は「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に保管してください。使用中にわからないことや不具合が生じたとき、きっとお役に立ちます。

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。

図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。

図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。

図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

安全上のご注意

警告

〔異常時の処置〕

- 万一煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。



プラグを抜け

- 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



プラグを抜け

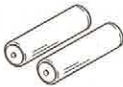
- 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



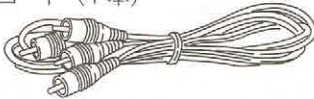
プラグを抜け

付属品の確認

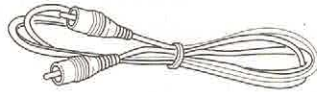
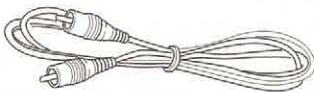
リモコン (1 個)

単 4 形乾電池 (2 本)
(R03)

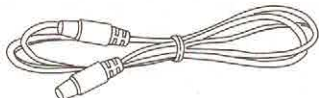
オーディオコード (1 本)



ビデオコード (2 本)



S 端子ケーブル (1 本)



- 取扱説明書
- 保証書
- ご相談窓口・修理窓口のご案内
- 安全上のご注意

ご使用の前に

安全上のご注意	2
特長	4
設置上の注意	6
ディスクについて	7

各部の名称と機能

前面	8
後面	9
リモコン	10

接 続

ハイビジョンLD (MUSE)	11
レーザーディスク (NTSC)	12
システムリモートコントロール接続	13
電源コードの接続	13

再 生

再生	14
基本再生操作	14
A 面、B 面を指定して再生する	14
再生をやめてディスクを取り出すには	15
ピクチャーストップ機能	15
ラストメモリー機能	15
黒をより黒くする (D-EXT)	15
表示の輝度切換	15

調整・設定

オーディオ機能切換	16
画質調整	18
画質メモリー	20
画質メモリーの呼び出し	20
画質設定のメモリー	20

特殊再生

静止画/コマ送り	21
画面を止めて音声を聞く	22
再生の速さや向きを変える	22
早送り・早戻し	23
シャトルリングとジョグダイヤル	23
画面を残す	24
チャプターの始めに戻る・次へ進む	24
指定したチャプターから再生する	25
指定したフレームから再生する	26
指定したタイムナンバーから再生する	27
くり返し再生	28
見たいチャプターだけを再生する	30
画面表示	32

その他

用語	34
故障? ちょっと調べてください	35
保証とアフターサービス	38
仕 様	39

—高画質、高音質、静粛性—

■MUSE/NTSC コンパチブル

ハイビジョンLD (MUSE方式) とレーザーディスク (NTSC方式) の両方が再生できます。

■両面再生機能

両面再生ディスクの両面を裏返すことなく連続再生できます。

■短波長ピックアップと3次元デジタルシステムによる高画質化

波長 670nm の短波長レーザーダイオードおよび3次元システム (HR3次元 Y/C分離、3次元 VNR) により、高画質でレーザーディスクを再生します。

■画質調整機能 (NTSC)

Y/C分離、YNR、CNRの各パラメータを設定できます。予めメモリーしてある3種類の設定の他に3種類の設定をメモリーできます。

■クロックリファレンス切替回路 (NTSC)

システムの動作基準信号をビデオ・クロックとオーディオ・クロックから選択できます。オーディオクロックを選択しますと、オーディオ・クロックのジッターが抑えられて安定した音声復調を可能にします。

■AC-3・RF 出力端子 (NTSC)

家庭用のサラウンド方式のドルビー・サラウンド・デジタル対応のレーザーディスクを再生し、この端子に専用のデコーダを接続することにより、独立した5.1チャンネルのデジタル音声を復調することができます。

■5ポイント・フローティング・コンストラクション

ディスク駆動部を本体と分離し、フローティング化した回転系メカ部の重心直下をピンポイントで支えて抗力の発生を抑えるとともに、ディスクの回転振動を外装部へ伝えにくくしています。

■サイレント・クーリングシステム

サイドパネルをダクトとする吸排気構造により、メカニズムの動作音やファンノイズを抑えて静粛化しています。

- ドルビー、DOLBY、AC-3およびダブルD記号はドルビーラボラトリーズライセンスリングコーポレーションの商標です。

ハイビジョンについて

ハイビジョン (Hi-Vision) とは、高精細度テレビジョン (HDTV: High Definition Television) につけられた呼称です。ハイビジョンの特徴は、何といても現行方式 (NTSC) の画像に比べて約5倍の情報量をもっていることです。水平、垂直解像度が2倍以上となり、大画面効果とともに4チャンネルステレオ音声により、臨場感あふれる映像と音響が楽しめることです。ハイビジョンと現行方式のテレビとの大きな相違点は、走査線数が現行テレビの2倍以上の1125本、アスペクト比 (画面の横縦比) も現行テレビの4:3に比べ16:9とワイドになっていることです。また、ハイビジョンの最適視距離は、画面の高さの約3倍となっていて、画角が約30°となり臨場感あふれる迫力のある映像を楽しめます。

ハイビジョンの音声は、Bモード2チャンネルの他に3-1方式と呼ばれるAモード4チャンネルステレオ方式が採用されており、大画面のテレビを視聴したとき、視聴位置による映像と音声の方向のずれによる違和感をなくし、臨場感豊かな音声が得られるようになっています。

3-1方式の特長は次のとおりです。

- 音声チャンネルを4チャンネルとしています。
- 視聴位置にかかわらず映像と音響の方向のずれを少なくするため前方に3チャンネルを配しています。
- いわゆるサラウンド効果を実現するために後方に独立した音声チャンネル (再生スピーカーは複数) を配しています。
- 映画音響との互換性を持っています。
- 従来2チャンネルステレオとの両立性を持っています。

MUSE方式について

ハイビジョンの映像信号帯域は、輝度信号だけでも現行テレビのほぼ5倍の20MHzが必要です。このような広い帯域を持つハイビジョン信号を衛星放送電波の1チャンネル分の帯域幅 (27MHz) で放送するためには、理論上、信号の帯域幅の1/3程度に圧縮する必要があります。

そこで、ハイビジョン信号の帯域幅を9MHz以下に圧縮して、衛星放送1チャンネル分の帯域幅でハイビジョン放送を行うことができるように開発されたのがMUSE方式 (Multiple Sub-sampling Encoding: 多重サンプリング方式) です。

デコーダイコライザーオフ機能 (MUSE時)

MUSEデコーダには、衛星放送やハイビジョンLDプレーヤーから得られるMUSE信号の波形等化を行うイコライザーがついているものがあります。MUSE信号にはテスト信号が入っており、そのテスト信号の波形が最適となるようにイコライザー回路で調整しています。

HLD-X9のMUSE出力信号に対して、デコーダのイコライザーが適正に働かない場合、再生画像に不自然なギラつきが出ることがあります。このような場合、MUSE出力信号に含まれる伝送コントロール信号のイタレーションフラグをたてることにより、デコーダのイコライザーが働かないようにするのがデコーダイコライザーオフ機能です。

注意:

イタレーションフラグを見えないデコーダではこの機能は働きません。

NTSC デジタル信号処理

レーザーディスクにおける高画質化は、

- ① 情報量を減らさない
- ② ノイズを減らす

という方向により、低ノイズ・高精細の映像が得られます。

HLD-X9ではデジタルTBCの後のコンポジット信号に、まず3次元VNR(ノイズリダクション)をかけています。そしてY/C分離には6Mビットのメモリーを用いたHR(High Resolution)3次元Y/C分離回路を採用しています。これは過去の2画面(2フレーム)のデータをメモリーし、現在のフレームと合わせて3フレームの演算をすることにより、正確なY/C分離を行うものです。

このHR3次元Y/C分離により高精細映像を実現しています。

オーディオ・クロックリファレンス(NTSC時)

LDでは映像と音声の同期をとるために、映像のマスタークロックに音声のマスタークロックを追従させていました。そのため音声のマスタークロックが映像に追従する際に、わずかにジッターが発生していました。

HLD-X9では、従来方式の映像マスタークロックと音声のマスタークロックの関係を逆転させ、音声のマスタークロックから音質に悪影響を与えるジッターを排除する機能を設けています。

注意:

- オーディオ・クロックリファレンスを選択した場合、静止画やサーチ、特殊再生から通常再生に入る際に、数秒間、画面の色が抜けたり色が変化する場合があります。
- オーディオ・クロックリファレンスは、デジタル音声付きディスクのデジタル音声にのみ働きます。

D-EXT(NTSC時)

外乱ノイズに対する水平同期と垂直同期の安定性を増すため、通常の黒を真の黒より少し明るく設置することをセットアップと言います。しかしこれらにより画質的には映像信号のダイナミックレンジを狭め、SN比を劣化させることとなります。特に暗部階調表現に支障をきたし、黒が真黒に沈みきらずに、画面全体が白っちゃけた雰囲気になります。

現在、日本で市販されているレーザーディスクのほとんどがセットアップ付きであり、セットアップなしは画面を重視するごく一部のディスクに限られています。

D-EXT回路は、セットアップをなくして黒を真黒にするもので、Y信号(S端子)とコンポジット信号(ピンジャック)のそれぞれに設けられています。

セットアップなしディスクの場合は“黒つぶれ”をおこしてしまうためこの動作をオフにする必要があります。

注意:

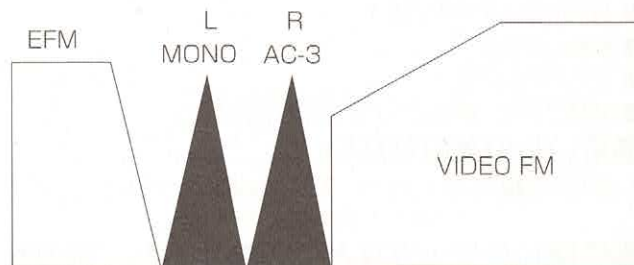
コンポジット出力でD-EXTをオンにすると輝度信号と共に色信号も伸張してしまうので、AGCのないモニター等で見ると色が濃くなる場合があります。S端子出力では輝度信号のみを伸張するので、そのようなことはありません。また、D-EXTをオンすると、使用するテレビによっては静止画面に画面がちらつくことがあります。故障ではありません。

AC-3(NTSC時)

AC-3とは、映画用のサラウンドシステムSR・D(Surround Digital)の6チャンネルのマルチ音声をフィルムのデジタルトラックに記録する際に使用される圧縮フォーマットです。レーザーディスクにおけるAC-3は映画館と同じマルチ音声を家庭で実現するために、AC-3方式によって圧縮された独立6チャンネルのマルチ音声をアナログRチャンネルの代わりに記録するものです。なお、6チャンネルの音声のうち、サブウーファー用の信号は低域のみの再生となり、また系統的に必須ではないので、5.1チャンネルと表現します。

<ディスク周波数アロケーション>

レーザーディスクではアナログ音声のRチャンネルの帯域を使ってAC-3信号を記録しています。



家庭用サラウンド方式の比較

	ドルビー・サラウンド・デジタル(AC-3)	ドルビー・サラウンド・プロ・ロジック
記録ch数	5.1 ch	2 ch
再生ch数	5.1 ch	4 ch
再生ch構成	L, R, C, SL, SR, SW (SWは推奨)	L, R, C, S
音声処理	デジタル・ディスクリット処理 AC-3 エンコード、デコード	アナログ・マトリックス処理 ドルビー・サラウンド
サラウンドchの高域再生限界	20 kHz	7 kHz
その他	ドルビーサラウンドに対し、 5ch完全独立 高ダイナミックレンジ 定位、位相特性に優れ、音場再現性が高度 ドルビーサラウンドの互換あり	

■再生中は本機を絶対に動かさない

再生中はディスクが高速回転しているので、本機を持ち上げたり動かしたりしないでください。ディスクを傷つける恐れがあります。

■設置する場所

- 組み合わせて使用するテレビやステレオシステムの近くの水平で安定した場所を選んでください。
- ステレオシステムと一緒に使う場合、スピーカーとモニターテレビは少し離してください。
- テレビやカラーモニターの上に本機を設置しないでください。カセットデッキなど、磁気の影響を受けやすい機器とは離して設置してください。

■次のような場所は避けてください。

- 直射日光のあたる所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- 極端に暑い所や寒い所
- 振動のある所
- ほこりの多い所
- 油煙、蒸気、熱などがあたる所（台所など）

■重いものをのせない

本機の上に重いもの（テレビ、アンプなど）をのせないでください。

■密閉したラックなどに収納すると、温度が上昇し、ディスクを傷めることがあります。

■熱を受けないように

アンプなど、熱を発生する機器の上にのせないでください。ラックに入れる場合はアンプや他のオーディオ機器から出る熱をさけるため、アンプよりできるだけ下の棚（ホコリをかぶらない程度）に入れてください。

■ガラスドア付きラックに入れたときの注意

リモコンのオープン/クローズ（▲）ボタンを押してディスクテーブルを開くとき、ガラスドアに当たらないように注意してください。強い力でディスクテーブルの動きが妨げられると、故障の原因になります。

■本機を使わないときは電源を切っておく

テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。

■本機を移動する場合

本機を移動したり、引っ越しなどで梱包する場合は、必ずディスクを取り出し、ディスクテーブルをプレーヤーに戻してください。その後、電源スイッチをオフにし、表示窓の「OFF」の表示が消えてから、電源コードをコンセントから抜いてください。電源スイッチがオンのまま、または表示窓の「OFF」表示中に電源コードをコンセントから抜くと、ピクアップが固定されないので、調整ずれや故障の原因になります。

■結露について

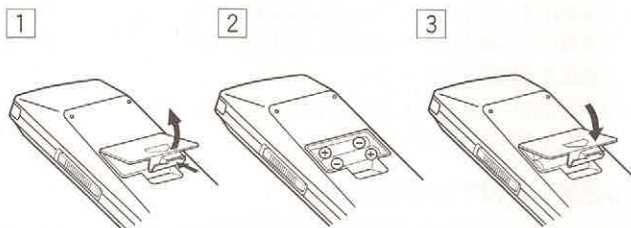
冬期などに本機を寒いところから温かい室内に持ち込んだり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部（動作部やレンズ）に水滴が付きます（結露）。結露したままでは本機は正常に動作せず、再生ができません。結露の状態にもよりますが、本機の電源を入れて1~2時間放置し、本機の温度を室温に保てば水滴が消え、再生できるようになります。夏でもクーラーやエアコンの風が、直接本機にあたりと結露がおこることがあります。その場合は本機の設置場所を変えてください。

■本機のお手入れ

本機の表面は、柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどい場合には、中性洗剤を水で5~6倍に薄めた液に柔らかい布を浸し、よく絞った後、汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー、アルコールなどを使うと表面の仕上げを傷めるので、使用しないでください。また、化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。

リモコンに電池を入れてください

- 1 裏側のふたを開ける。
- 2 ⊕、⊖の向きに注意して電池をはめ込みます。
- 3 ふたを閉めます。



ご注意

- 長い間（1ヵ月以上）使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出してください。もし液漏れを起こしたときには、ケース内についた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- リモコンの上に本などを置かないでください。ボタンが押され続けて、電池が消耗してしまうことがあります。

△注意

乾電池を誤って使用すると液もれや破裂するなどの危険があります。

次の点にご注意ください。

- 乾電池のプラス⊕とマイナス⊖の向きを電池ケースの表示通り正しく入れてください。
- 新しい乾電池と一度使用した電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池には同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。

本機は、下記のディスクをアダプター無しで、再生することができます。

下表に表示されたマークはディスクのレーベル、またはジャケットに付いています。

再生できるディスクの種類とマーク	大きさ／再生面	最大再生時間	
		CAV	CLV
ハイビジョンLD  Hi-Vision LD	ハイビジョンLD 30 cm /両面 	CAV	1時間
		CLV	2時間
	ハイビジョンLD 20 cm /両面 	CAV	20分
		CLV	40分
レーザーディスク  LASER DISC  Laser Vision  LD シングル CD VIDEO	LD 30 cm /両面 	CAV	1時間
		CLV	2時間
	LD 20 cm /両面 	CAV	28分
		CLV	40分
	LDシングル 20 cm /片面 	CAV	14分
		CLV	20分

上記以外は再生できません。

(例) CD、CDV、VIDEO SINGLE DISC、ビデオCD、CD-ROM、LD-ROM、LDグラフィックス等

本機はハイビジョン帯域圧縮方式であるMUSE方式と日本のテレビ方式であるNTSC方式に適合しています。他のテレビ方式(PAL、SECAM)のディスクは使用できません。

ドルビー サラウンドAC-3ディスク

映画館用サラウンドシステム(Surround Digital)の6チャンネル分の音声をAC-3で圧縮されたデジタルデータにして従来のアナログチャンネル(Rチャンネル)に記録したレーザーディスクです。

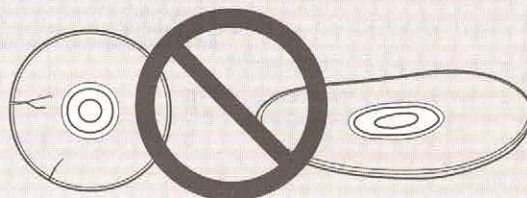


ドルビーサラウンドAC-3ディスクを楽しむには、本機のAC-3 RF出力端子をアンプやプロセッサのAC-3 RF入力へ接続することが必要です。

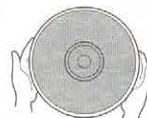
△注意

ひびやそりのあるディスクは絶対に使わない

ひび割れや変形または、接着剤等で修復されたディスクは危険ですから、絶対に使用しないでください。また、レコードスプレー、静電気防止剤等は、ひび割れの原因になりますので使用しないでください。



ディスクの持ちかた



両手で持つ場合

ディスクの両端をはさんで持つ。



片手で持つ場合

中央の穴と外周部に指をかけて持つ。



紙などを貼らない。
ディスク面に触れない。

お手入れ

より良い画質と音質をお楽しみいただくため、ディスク面が汚れた場合は柔らかい布などで拭き取ってください。拭くときは、必ずディスクの内側から外側に向かって拭いてください。従来のレコードのように円周に沿って拭かないでください。



放射状にふく

- レコードクリーナー、ベンジン、シンナー、静電気防止剤等は使わないでください。
- 汚れがひどいときは、別売のディスククリーニングセットJV-D11をお使いください。

保管

使用後はディスクをプレーヤーから必ず取り出して、ジャケットやケースにしまい、垂直に保管してください。斜めにしたり、積み重ねておくとディスクがそる場合があります。直射日光が当たる所、高温多湿な所などに置かないでください。

前面

電源スイッチ

ボタンを押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。

ダイナミック エクステンション

D-EXT インジケーター

映像の黒色の部分を、より黒くする回路が動作していることを示します。

ディスクテーブル

CLOCK REF. インジケーター

クロック リファレンス

ビデオ

VIDEO: 映像信号を基準に再生動作することを示します。

オーディオ

AUDIO: 音声信号を基準に再生動作することを示します。

リモコン受光部

リモコンをここへ向けて操作します。

デジタル データ オフ

DIGITAL DATA OFF インジケーター

デジタル信号出力をオフしていることを示します。

ディスプレイ オフ

DISPLAY OFF インジケーター

表示窓の中の表示を消灯していることを示します。

サイド

SIDE A インジケーター

A面の再生中であることを示します。サーチ動作中は点滅します。

サイド

SIDE B インジケーター

B面の再生中であることを示します。サーチ動作中は点滅します。

オープン クローズ

OPEN/CLOSE ボタン (▲)

ディスクテーブルを開閉します。

プレイ スティル

PLAY/STILL ボタン (▶/▶|◀)

再生を始めるときに押します。再生中に押すと一時停止して静止画になります。

表示窓

[HD]: ハイビジョンLDを再生すると点灯します。

チャプター

CHAPTER: チャプターナンバーを表示します。トータル表示時は総チャプター数を表示します。

フレーム

FRAME: フレームナンバーを表示します。

トータル

TOTAL: 総再生時間を表示します。

リメイン

REMAIN: 再生残り時間を表示します。

タイム

TIME: タイムナンバー(再生経過時間)を表示します。

ワンショット メモリー

ONE-SHOT MEMORY: ワンショットメモリー中であることを示します。

後面

AC-3・RF 出力端子

AC-3 (デジタルマルチ音声フォーマット) 対応の出力端子です。AC-3・RF 入力のあるアンプやサラウンドプロセッサと接続し、ドルビーサラウンドAC-3対応のLDソフトにより再生できます。

- ドルビーサラウンドAC-3に対応していないLDソフト、AVアンプ等では再生できません。
- 通常のステレオアンプ、AVアンプ等の入力端子には接続しないでください。

音声出力 1、2 端子

テレビやステレオアンプのLDなどの音声入力端子と接続します。

- PHONO 端子とは絶対に接続しないでください。

S 映像出力 1、2 端子

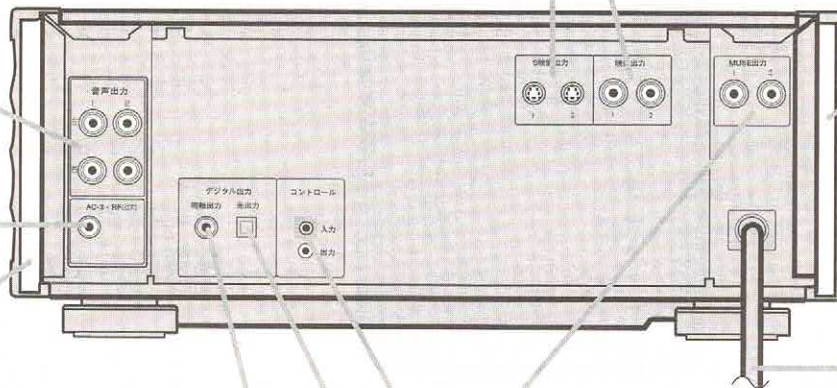
S 映像信号 (NTSC) が出力されます。テレビまたはAVアンプのS映像入力端子と接続します。

映像出力 1、2 端子

コンポジット映像記号 (NTSC) が出力されます。テレビまたはAVアンプの映像入力端子と接続します。

排気孔

内部冷却の空気吹き出し口です。



吸気孔

内部冷却の空気取り入れ口です。

同軸デジタル出力端子

D-Aコンバータまたはデジタル録音機器の同軸デジタル入力端子と接続します。

光デジタル出力端子

D-Aコンバータまたはデジタル録音機器の光デジタル入力端子と接続します。

MUSE出力 1、2 端子

ハイビジョンテレビやMUSEデコーダのMUSE入力端子やMUSE-LD入力端子と接続します。

MUSE/NTSCコンバータ内蔵のワイドテレビのMUSE端子とも接続できます。

コントロール入力/出力端子

パイオニアの \square マーク付の製品と組み合わせて、システムコントロールする場合にミニプラグ付きコード(抵抗なし)で接続します。

電源コード

電源コンセント (AC100V、50 / 60Hz) につなぎます。プレーヤーは電源スイッチがオフの状態でも、内部のメモリーに電気を供給しています。このため、必ず壁のコンセントに接続してください。アンプのスイッチ連動予備コンセント (SWITCHED OUTLET) などに接続しますと、ラストメモリー機能などが動きません。

注意

名称

接続

基本

選択

応用

他

各部の名称と機能

リモコン

- パイオニア製品のプリセットリモコン等におけるLD 操作部のロ/△ ボタンでは、ディスクテーブルのオープンができないものがあります。

ディスクサイド A、B ボタン (14 ページ)

リピートボタン (28、29 ページ)

電源ボタン (14 ページ)

ディスプレイボタン (32、33 ページ)

ワンショットメモリーボタン (24 ページ)

プログラムボタン (30、31 ページ)

チャプター/タイムボタン (25~27 ページ)

ストロボボタン (22 ページ)

ビデオセレクトボタン (18~20 ページ)

ビデオメモリーボタン (20 ページ)

オーディオモードボタン (16、17 ページ)

ジョグモードボタン (23 ページ)

ストップボタン (15 ページ)

ポーズボタン (15 ページ)

FL ディマーボタン (15 ページ)

オープン/クローズボタン (14 ページ)

ダイナミックエクステンションボタン (15 ページ)

クリアーボタン (16~20、25~31 ページ)

数字ボタン (25~27、30、31 ページ)

マルチスピードボタン (22 ページ)

ステップボタン (21 ページ)

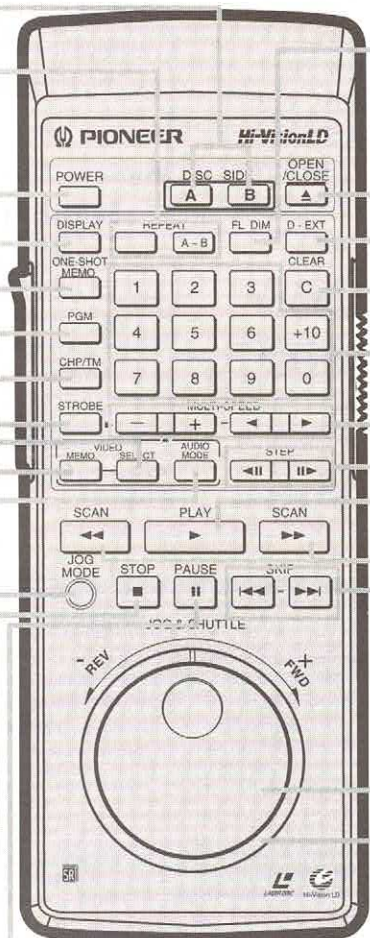
プレイボタン (14、29 ページ)

スキャンボタン (23 ページ)

スキップボタン (24、31 ページ)

ジョグダイヤル (23 ページ)

シャトルリング (16~20、23 ページ)

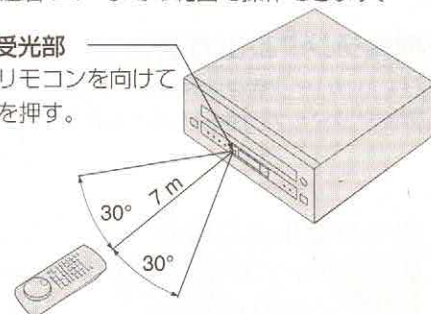


リモコン操作範囲

リモコンはプレーヤーの前面部のリモコン受光部に向けて操作します。プレーヤーからリモコンの距離は7m以内、またリモコン受光部を基準にして左右30°までの範囲で操作できます。

リモコン受光部

- ここにリモコンを向けてボタンを押す。



ライティングボタン

- ライティングボタンを押すと下図に示した部分が約3秒間点灯し、徐々に消灯していきます。
- 電池が消耗すると、光が弱くなります。またリモコンの操作範囲もせばまりますので、新しい電池と交換してください。

*注:

ジョグモードボタンは、ライティングボタンとは関係なく、押すたびに点灯します。

ライティングボタン

点灯します

(*注)

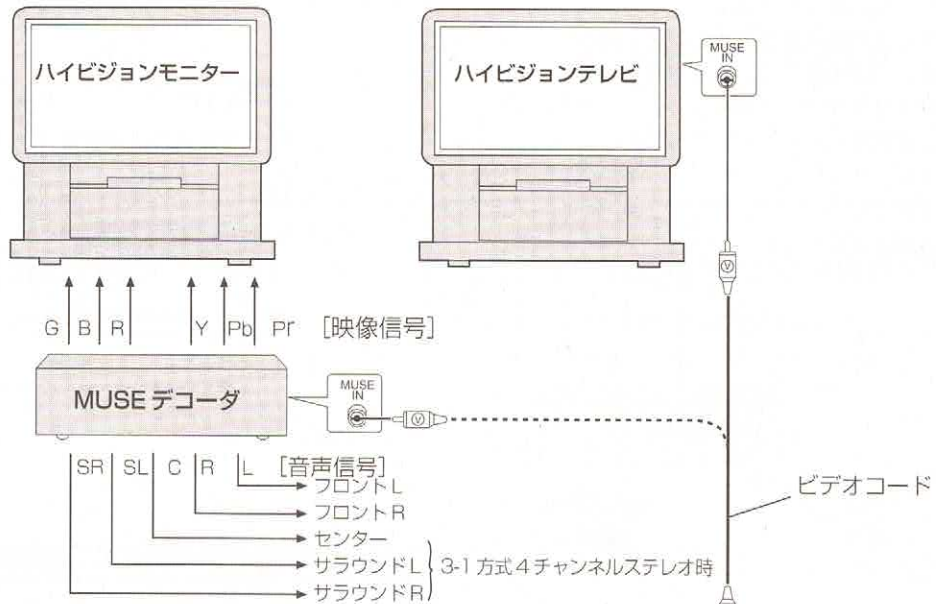


- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの強い光が当たると、誤動作することがあります。
- 後面のコントロール入力端子が接続されている場合は、接続した機器のリモコン受光部に向けて操作してください。(13 ページを参照してください。) 本機に向けては操作できません。
- リモコンが操作可能範囲で操作されていても、間に障害物があったり、角度が悪いとリモコンが操作できない場合があります。
- 赤外線の出る機器の近くで本機を使用したり、赤外線を使ったリモコン装置を使用すると本機が誤動作することがあります。また、赤外線信号によってコントロールされる他の機器が本機のリモコンによって誤動作することがあります。誤動作の起きないように、設置場所を変えてください。

ハイビジョンLD (MUSE)

MUSE 出力端子の接続

- ハイビジョンテレビやMUSEデコーダのMUSE入力端子とビデオコードで接続します。映像信号と音声信号はMUSEデコーダから復調出力されます(ハイビジョンテレビとMUSEデコーダの取扱説明書をご覧ください)。



オーディオ出力端子の接続

[EFM オーディオ信号]

オーディオコード

ステレオアンプ

最後に壁のコンセントにつなぐ

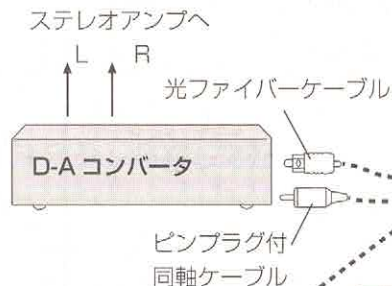
- EFM オーディオ (CD フォーマットのデジタル音声) は MUSE デコーダからは出力されません。EFM オーディオの記録されたハイビジョンLDを再生する場合は、オーディオ出力端子から EFM オーディオが出力されます。EFM オーディオを楽しむ場合は、ステレオアンプの LD、CD、AUX などの音声入力端子とオーディオコードで接続します。

注
名
称
接
続
基
本
選
択
応
用
他

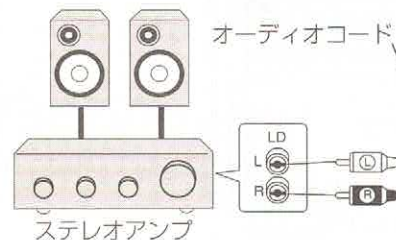
レーザーディスク (NTSC)

デジタル出力端子の接続

- 光デジタル出力および同軸デジタル出力端子を装備しています。D-Aコンバータやデジタル入力端子付きのステレオアンプのデジタル入力端子と、それぞれに対応した接続ケーブルで接続します。
- デジタル出力端子からは、レーザーディスクのアナログ音声は出力されません。アナログ音声を再生する場合は、オーディオコードを接続してください。
- 光デジタル出力端子を使用する際は、防塵キャップを引き抜いてください。(キャップは大切に保管し、使用しない端子には必ず防塵キャップを差し込むようにしてください。)
- ケーブルは奥まで完全に差し込んでください。
- 光ファイバーケーブル (別売) は3m以下のものを使用し、急な角度で曲げないようにしてください。また、プラグにほこりが付かないようにしてください。



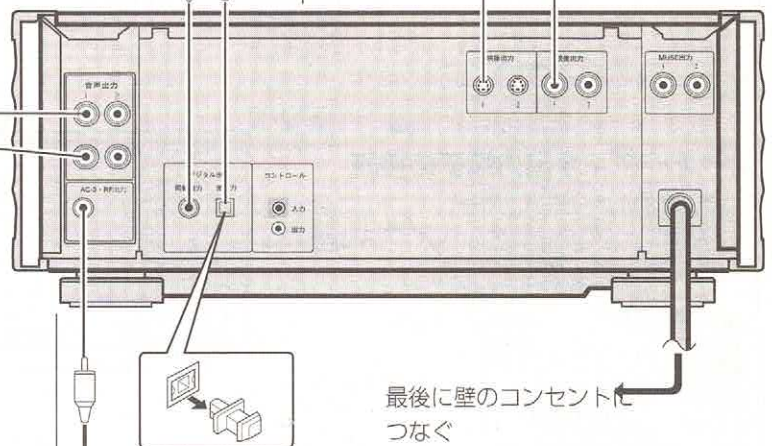
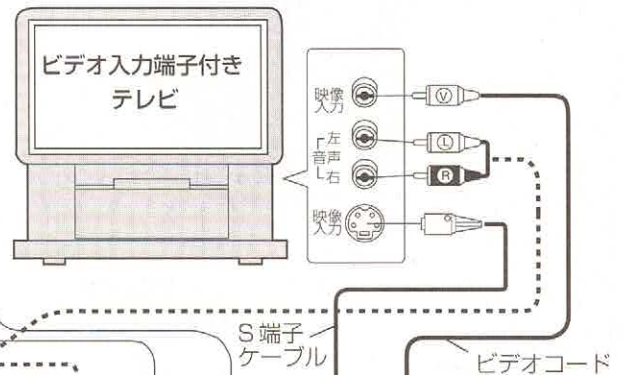
オーディオ出力端子の接続



- ステレオアンプのLD、CD、AUXなどの音声入力とオーディオコードで接続します。
- PHONO入力端子とは絶対に接続しないでください。

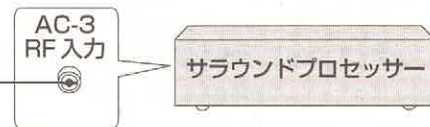
映像出力端子の接続

- 映像入力端子付きテレビの映像入力端子とビデオコードで接続します。
- S映像出力端子はS端子ケーブルでS映像入力端子付きテレビのS映像入力端子と接続します (ビデオコードとS端子ケーブルの切換についてはテレビの取扱説明書をご覧ください)。



AC-3・RF出力端子について

- AC-3 (デジタルマルチ音声フォーマット) 対応の出力端子です。AC-3・RF入力のあるアンプやサラウンドプロセッサーと接続し、ドルビーAC-3対応のLDソフトにより再生できます。
- ドルビーAC-3に対応していないLDソフト、AVアンプ等では再生できません。
 - 通常のスtereoアンプ、AVアンプ等の音声入力端子には接続しないでください。

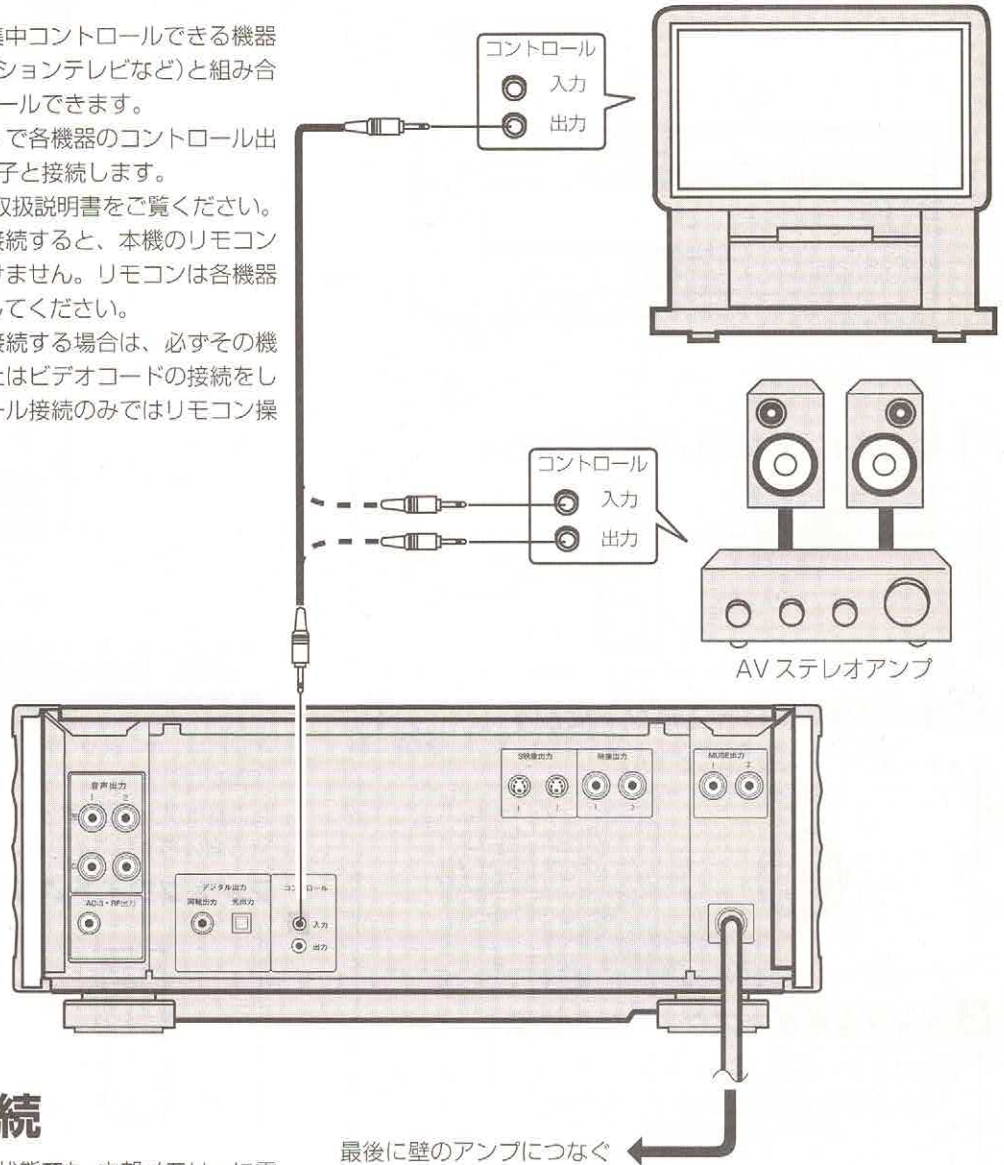


システムリモートコントロール接続

SR マーク付きのパイオニア製品を集中コントロールできる機器 (AVサラウンドアンプやプロジェクションテレビなど) と組み合わせるとシステムリモートコントロールできます。

市販のミニプラグコード (抵抗なし) で各機器のコントロール出力端子と本機のコントロール入力端子と接続します。

- 接続方法、操作方法は各機器の取扱説明書をご覧ください。
- システムリモートコントロール接続すると、本機のリモコン受光部はリモコン信号を受け付けません。リモコンは各機器のリモコン受光部に向けて操作してください。
- システムリモートコントロール接続する場合は、必ずその機器との間にオーディオコードまたはビデオコードの接続をしてください。システムコントロール接続のみではリモコン操作できません。



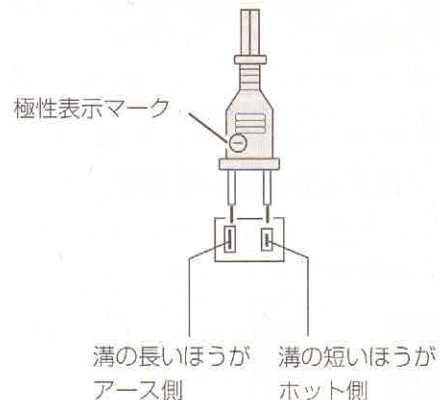
電源コードの接続

プレーヤーは電源スイッチがオフの状態でも、内部メモリーに電気を供給しています。このため、必ず壁のコンセントに接続してください。アンプのスイッチ連動予備コンセント (SWITCHED OUTLET) などに接続しますと、ラストメモリーなどの機能が働きません。

- 本機の電源コードは極性管理されています。壁のコンセントは片側が大地につながっています。本機ではこの極性を音質向上のために利用しています。図のように、電源プラグの極性表示マーク ⊖ をコンセントの溝の長い方に (アース側) に合わせて差し込んでください。

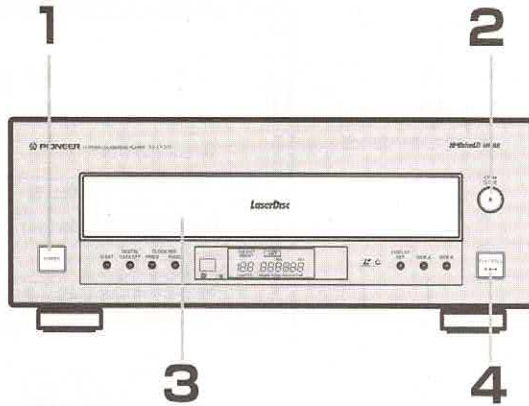
極性を合わせていない場合でも音質にはほとんど影響はありませんが、微妙に音質が変わることがあります。極性の管理されていない電源コンセントをお使いになる場合にはプラグの差し込み方を逆にして音を確認してください。

最後に壁のアンプにつなぐ



注 意
 名 称
 接 続
 基 本
 選 択
 応 用
 他

基本再生操作

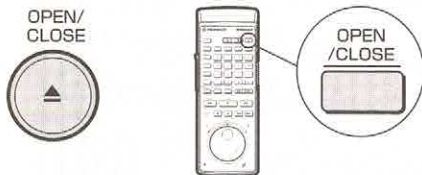


1 電源スイッチを押して電源を入れる。



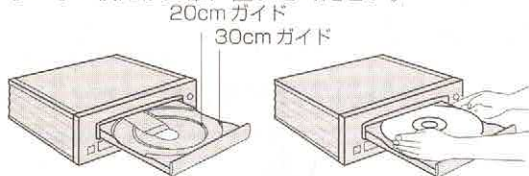
2 オープン/クローズボタンを押す。

- ディスクテーブルが出てきます。



3 ディスクをディスクテーブルに置く。

- 再生したい面のレーベルを上にして、ディスクガイドにそって1枚だけ正確に置いてください。



CD、CDV、VIDEO SINGLE DISC、ビデオCD、CD-ROM、LD-ROM、LDグラフィックスは再生できません。

4 プレイ/スティルボタンを押す。

- ディスクテーブルが引き込まれ、再生が始まります。
- A面の再生が終わると自動的にB面を再生します。



本機前面とリモコンで同じ名称やマークのボタンは同じ働きをします。

ディスクサイド
A、Bボタン

電源ボタン

プレイボタン

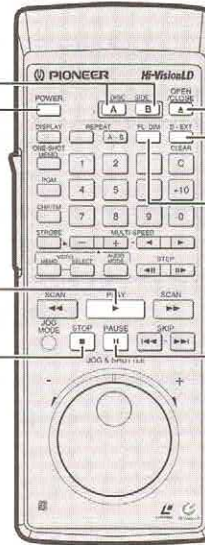
ストップボタン

オープン/
クローズボタン

ダイナミック
エクステンション
ボタン

FLディマー
ボタン

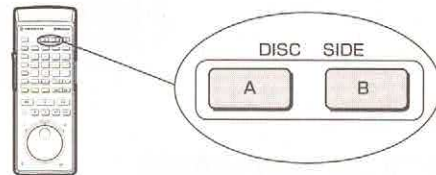
ポーズボタン



A面、B面を指定して再生する

A面とは、ディスクテーブルに置いたときの上側をさし、B面は下側をさします。プレイボタンを押さずに、ディスクサイドAまたはBボタンで面(サイド)を指定すると、指定した面を再生し、その面の再生が終わると停止します。

ディスクサイドAまたはBボタンを押す。



ディスクセットのご注意

ディスクテーブルのガイドからずれてディスクをセットすると正しく演奏できないばかりか、ディスクを傷つけたり故障の原因になります。ディスクは1枚だけセットしてください。

2枚重ねてセットするとディスクを傷つけたり故障の原因となります。

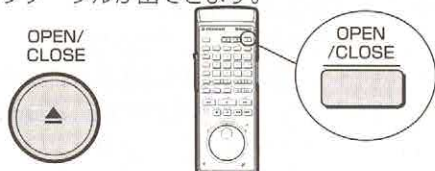
⚠注意

- ディスクテーブルが引き込まれるときに指をはさまれないように注意してください。また、小さなお子さまがディスクテーブルに手をはさまれないように特に注意してください。けがをすることがあります。
- ディスク以外のものをディスクテーブルにのせないでください。

再生をやめてディスクを取り出すには

オープン/クローズボタンを押す。

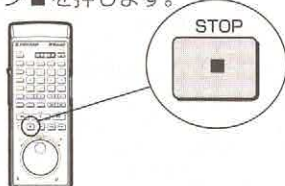
- ディスクテーブルが出てきます。



- ディスクを取り出したら、オープン/クローズボタンを押してディスクテーブルをプレーヤーの中にもどします。

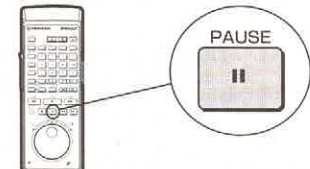
再生を中止するには (■)

ストップボタン■を押します。



再生を一時止めるには (||)

ポーズボタン||を押します。音や映像が消えます。もう一度ポーズボタン||を押すと、止めたところから再生が始まります。



- 長時間、一時停止状態のままにしておくと、モーター寿命を縮める原因となりますので、約20分間一時停止状態が続くと自動的に停止します。(ポーズタイマー)

ピクチャーストップ機能

ディスクの中には、「ピクチャーストップコード」という特別な信号を記録したものがあります。このようなディスクを再生すると、ピクチャーストップコードで指定されたフレームで自動的に静止画になります。そのときは、プレイボタンやマルチスピードボタンで画面を動かしてください。

■ピクチャーストップ機能を働かなくするには

本体前面のプレイ/スティルボタン (▶/▶|◀) を2秒間以上押し続けると、画面に "PSC ON" (ピクチャー・ストップ・キャンセル) の表示が出て、ピクチャーストップコードのある画面で静止画にならなくなります。

再び、本体前面のプレイ/スティルボタン (▶/▶|◀) を2秒間以上押し続けると、画面に "PSC OFF" の表示が出て、ピクチャーストップコードのある画面で静止画になります。

ラストメモリー機能

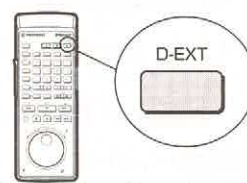
再生中にパワースイッチを押して電源を切ると(スタンバイ状態にすると)、再生中の場面の少し手前をメモリーします。再びパワースイッチを押して電源を入れ、本体前面のプレイ/スティルボタン (▶/▶|◀) またはリモコンのプレイボタン (▶) を押すと、メモリーした場面から再生します ("Last Memory" と表示されます)。

黒をより黒くする (D-EXT)

映像の黒色の部分を、より黒くすることができます。ハイビジョンLDには機能しません。D-EXTについては5ページをご覧ください。

ダイナミック エクステンションボタンを押す。

- 本体前面のD-EXTインジケーターが点灯します。



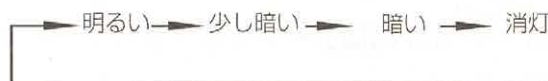
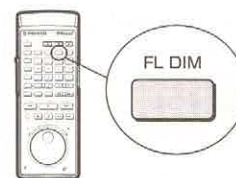
- もう一度押して、インジケーターを消灯すれば、この機能は働きません。
- ディスクによってはD-EXTをオンにすると「黒つぶれ」をおこすことがあります。この場合はオフにしてください。
- コンポジット出力 (ピンジャック) では、使用するテレビによっては、D-EXTをオンすると色が濃くなることがあります。

表示の輝度切換

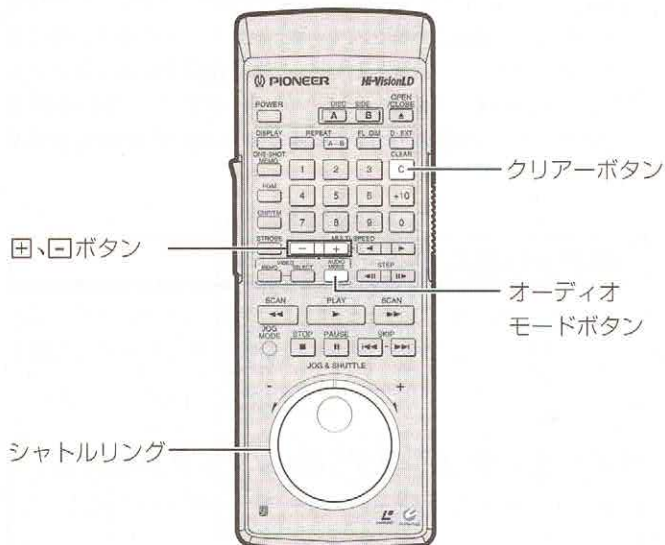
表示窓の表示の明るさを3段階に切り換えたり、消灯することができます。

FL ディマーボタンを押す。

- 押す毎に切り換わります。



レーザーディスク



■操作のしかた (レーザーディスク)

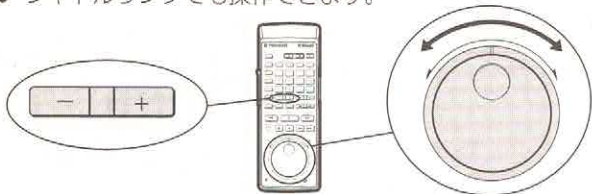
1 オーディオモードボタンを押す。

- 1回押すと選択画面表示になります。
- 表示内容は再生するディスクにより異なり、表示された項目についてのみ、選択・設定することができます。
- 選択されている項目は反転文字になります。
- 表示中に続けて押すと選択項目が移ります。



2 田、回ボタンを押す。

- 田、回ボタンを押すと、選択されている項目の設定が変わります。
- シャトルリングでも操作できます。



3 オーディオ切換モードを終了する。

- 終了するには、
- (1) オーディオモードボタンをくり返して押す(表示が消えるまで)。
 - (2) または、クリアーボタンを押す。
- 約5秒放置すると自動的に終了します。

■選択項目 (レーザーディスク)

CLOCK REF-VIDEO/AUDIO:

システムの基準クロックをビデオにするかオーディオにするかを選択します。AUDIOにするとデジタル音声付きレーザーディスクのデジタル音声用クロックの精度が高まり、より高音質でお楽しみいただけます。(5ページ「オーディオ・クロックリファレンス」参照)

- AUDIO側にすると静止画やサーチ、特殊再生から通常再生に入る際に数秒間、画面の色が抜けたり色相が変化する場合があります。

D.DATA OUT-ON/OFF:

同軸、光デジタル出力およびAC-3・RF出力を行うかどうかを選択します。

MODE-STEREO/L/R:

ステレオディスクの片チャンネル出力や音声多重ディスクの音声を選択します。音声多重ディスクでは「L」は音声1、「R」は音声2のみの出力になります。

AC-3ディスクでアナログ音声を選択したときは、Lch MONOのみとなります(AC-3については5ページ参照)。

AUDIO OUT-D./A.:

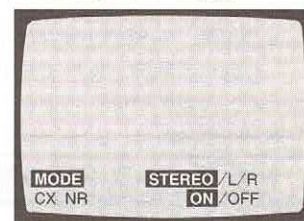
デジタル記録音声を出力するか、アナログ記録音声を出力するかを選択します。

CX NR-ON/OFF:

CX ノイズリダクションのオン/オフを選択します。CX自動切換コードが記録されているディスクでは強制的にON、OFFに固定されます。

〔デジタル音声付の場合〕

〔アナログ音声みの場合〕



アナログ音声を選択した場合は、AC-3ディスクではLのみ選択できます。

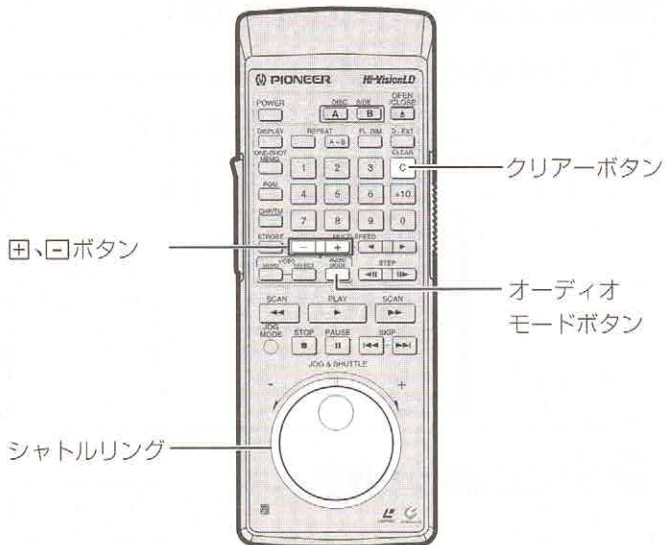
⊗マーク付のディスクについて (レーザーディスクのみ)

⊗マークの付いたディスクでは、CXノイズリダクションシステムにより、雑音の少ない音を再生することができます。

⊗マーク付きのディスクの中には、CXシステムを自動的に入切するコードが記録されていないものがあります。この場合は、ONにしてください。

- ⊗はCBSの商標です。本プレーヤーはCXの伸張仕様に適合します。

ハイビジョンLD



■操作のしかた (ハイビジョンLD)

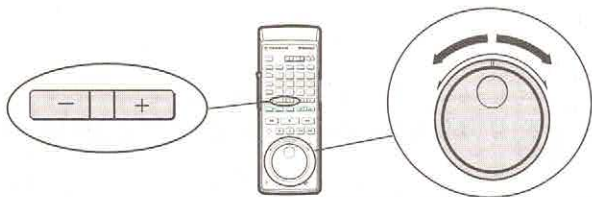
1 オーディオモードボタンを押す。

- 1回押すと選択画面表示になります。
- 表示内容は再生するディスクにより異なり、表示された項目についてのみ、選択・設定することができます。
- 選択されている項目が点滅し、設定がカッコ(<>)で示されます。
- 表示中に続けて押すと選択項目が移ります。



2 田、回ボタンを押す。

- 田、回ボタンを押すと、選択されている項目の設定が変わります。
- シャトルリングでも操作できます。



3 オーディオ切換モードを終了する。

- 終了するには、(1) オーディオモードボタンをくり返して押す(表示が消えるまで)。
- (2) または、クリアーボタンを押す。
- 約5秒放置すると自動的に終了します。

■選択項目 (ハイビジョンLD)

CLOCK RANGE-WIDE/NARROW:

EFMオーディオ (CDフォーマットのデジタル音声) の記録されたハイビジョンLDを再生するとき、NARROWにすると、デジタル音声用のクロックの安定性が高まり、より高品質でお楽しみいただけます。

- EFMオーディオに対してのみ機能し、ハイビジョン音声は変化しません。
- NARROW側で再生すると、ディスクによってはまれに音飛び等が発生することがありますが、このような場合はWIDE側でお楽しみください。

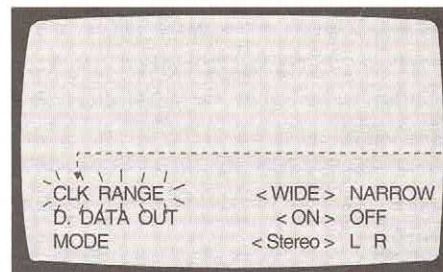
D.DATA OUT (EFMオーディオ出力) -ON/OFF:

同軸、光デジタル出力を行うかどうかを選択します。

MODE (EFMオーディオ出力) -STEREO/L/R:

ステレオディスクの片チャンネル出力や音声多重ディスクの音声を選択します。音声多重ディスクでは「L」は音声1、「R」は音声2のみの出力になります。

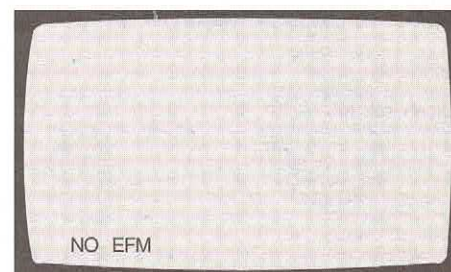
〔EFM有りの場合〕



選択されている項目が点滅します。

〔EFM無しの場合〕

(機能が無いので警告表示となる)



注意

名称

接続

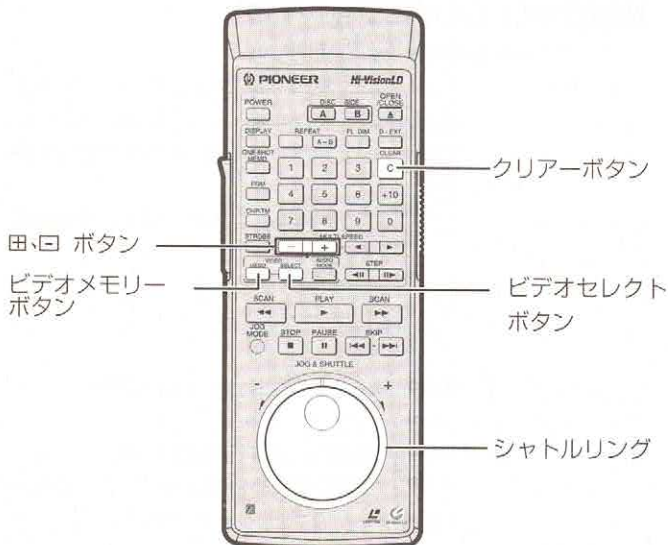
基本

選択

応用

他

レーザーディスク



■調整項目 (レーザーディスク)

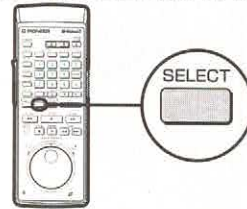
- Y/C : Y/C分離の形式を選択します。
通常はNORMALに設定してください。
C.WIDEは色の濃い部分が早く動く場面で、ドット状のノイズが気になる場合に選択します。
HRは情報量を最優先にする場合に選択します。
動画を含む全ての映像を3次元処理する特殊なモードであり、ドット状のノイズも多くなりますので通常の鑑賞にはおすすりできません。実験的なモードと考えてください。このHRモードを選択した場合には、3D.Y/Cパラメーターは固定となります。
- 3D.Y/C : Y/C分離の2次元(off)～3次元(max)を選択します。offでは動きのはげしい映像でのクリアーさが強調され、maxでは動きの少ない映像でのクロスカラーが改善されます。
- 3D.YNR : 輝度信号のノイズ低減効果を調整します。
- 3D.CNR : 色信号のノイズ低減効果を調整します。

- 静止画の画質調整はできません。

■調整のしかた (レーザーディスク)

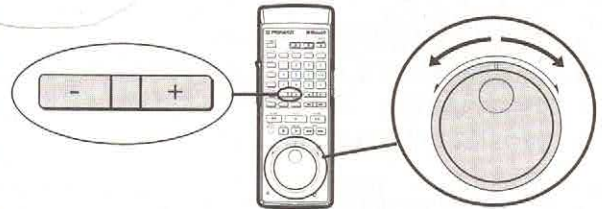
1 ビデオセレクトボタンを押す。

- 1回押すと右記のような画面表示になります。
- 選択されている項目は反転文字になります。
- 表示中に続けて押すと選択項目が移ります。



2 田、口ボタンを押す。

- 田、口ボタンを押すと、選択されている項目の設定が変わります。
- シャトルリングでも操作できます。

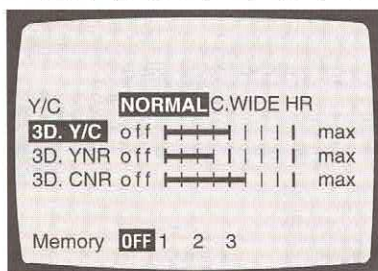


3 画質調整モードを終了する。

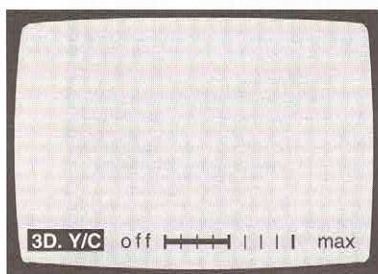
- 終了するには (1) ビデオセレクトボタンをくり返して押す (表示が消えるまで)。
(2) または、クリアーボタンを押す。
- 上記の操作で画質調整モードを終了すると、調整した画質状態を保持します。
 - 画質調整モードのまま約30秒放置すると、調整画面が消え、画質は調整前の状態に戻ります。

- 設定した画質をメモリーしておくことができます(20ページ)。

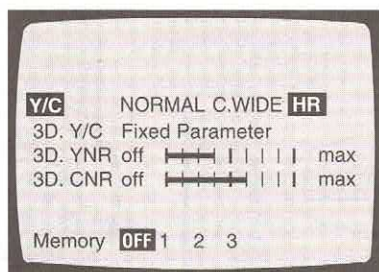
選択画面 (レーザーディスク時)



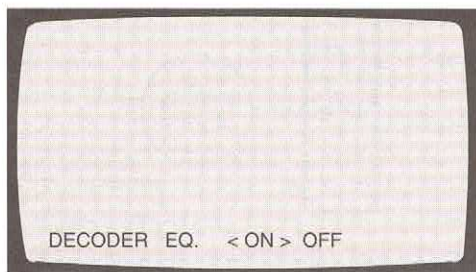
- 選択画面では何も操作しないと、約5秒たつと選択中の項目のみを画面下に表示します。このように、画面が見やすくなりますので、映像を見ながらの微調整が必要なときは、この状態で行ってください。



- 調整項目のY/Cで、HRを選択すると、3D.Y/C値は固定になります。



選択画面 (ハイビジョンLD時)



ハイビジョンLD

■調整項目 (ハイビジョンLD)

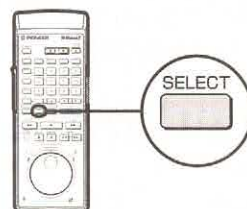
DECODER EQ ON/OFF:

プレーヤーに接続されるハイビジョンテレビまたはMUSEデコーダのイコライザ動作をオン/オフします。通常は「ON」でご使用ください。デコーダのイコライザ動作を停止して再生画像をご覧になる場合には「OFF」を選択してください。なお、ハイビジョンテレビまたはMUSEデコーダによっては、この機能が働かないものもあります。(4ページ「デコーダイコライザーオフ機能」参照。)

■調整のしかた (ハイビジョンLD)

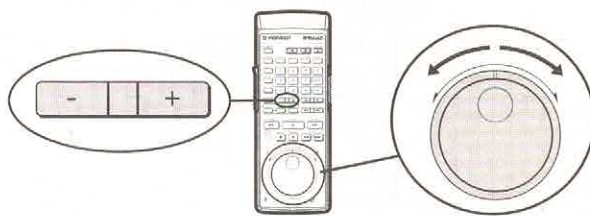
1 ビデオセレクトボタンを押す。

- 1回押すと左下のような画面表示になります。
- 設定状態がカッコ (<>) で表示されます。



2 田、口 ボタンを押す。

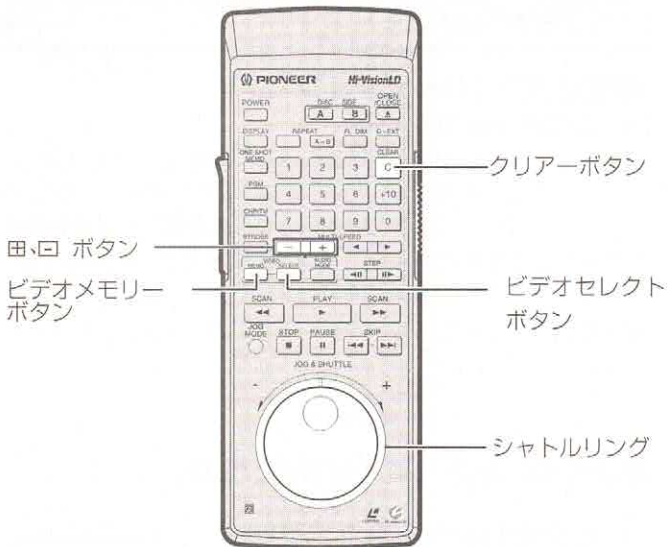
- 田、口 ボタンを押すと、設定が切り換ります。
- シャトルリングでも操作できます。



3 画質調整モードを終了する。

- 終了するには、
- (1) ビデオセレクトボタンをくり返して押す (表示が消えるまで)。
 - (2) または、約30秒放置する
 - (3) または、クリアーボタンを押す。

注
意
名
称
接
続
選
択
応
用
他



画質メモリーの呼び出し (レーザーディスク)

あらかじめメモリーされている3種類の画質と「画質設定のメモリー」でメモリーした3種類の画質から選べます。

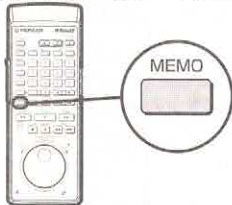
■あらかじめメモリーされている画質

- Standard (スタンダード) : 標準画質です。
- Sports (スポーツ) : 動きの速い映像向けの画質です。
- Art (アート) : 動きの遅い映像向けの画質です。

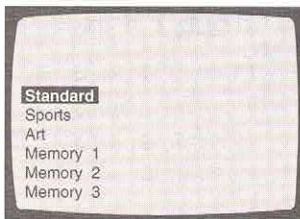
■呼び出しかた

ビデオメモリーボタンを押す。

- 1回押すと下記のような画面表示になります。
- 選択されているメモリーは、反転表示になります。
- 表示中に続けて押すとメモリーの選択が移ります。



- 反転表示が無い場合は、画質調整の状態を意味します (画質調整の設定内容がメモリーされていない状態)。



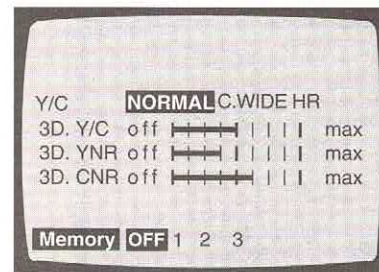
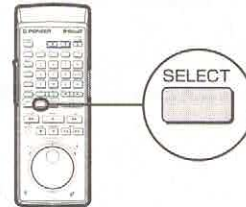
- 約5秒で表示は消えます。
- クリアーボタンを押すと、すぐに表示が消えます。

画質設定のメモリー (レーザーディスク)

各項目の設定値の組み合わせを3通りまでメモリーできます。

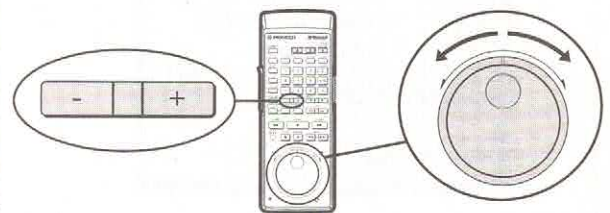
1 ビデオセレクトボタンを押す。

- 画質をお好みの状態に、調整 (18ページ参照) した後、「Memory」が反転表示になるまで、くり返し押します。



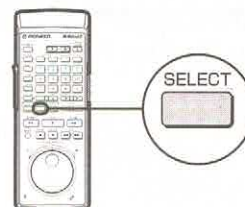
2 田、回 ボタンを押す。

- 1、2、3のうちの1つを反転表示にします (メモリーを選ぶ)。
- OFFを反転表示にするとメモリーされません。
- シャトルリングでも操作できます。

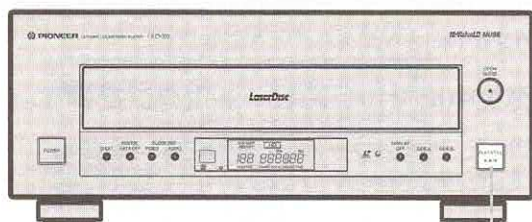


3 ビデオセレクトボタンを押す。

- その時点で表示されている設定値がメモリーされ、選択画面が消えます。



■静止画、コマ送り中は音声は聞こえません。



プレイ/スティルボタン

静止画にするには

■本体操作

再生中にプレイ/スティルボタンを押す。

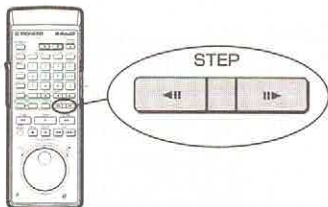


- 静止画で押すとふつうの再生にもどります。

■リモコン操作

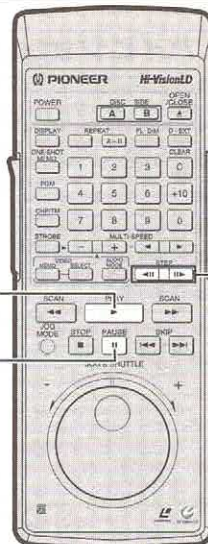
再生中にステップボタンを押す。

- どちら向きのボタンでも静止画になります。



- プレイボタンを押すとふつうの再生にもどります。

- ハイビジョンLDで、静止画、コマ送りを行った後、ふつうの再生にすると、数秒間音声途切れますが、これはMUSE方式固有の現象で本機の故障ではありません。
- レーザーディスクのCLVディスクの場合、ディスクのキズ、汚れ等でコマ送り、戻しができない場合があります。その際、リモコンのポーズボタン(II)を約2秒間押してから、再度コマ送り、戻しを行えば、できる場合があります。この時、画面のフレームとフィールドの表示が消えます。次回電源をオンした時には、またフレームとフィールドの表示を行います。
- レーザーディスクでフィールドコマ送り時に画面が変わらない場合がありますが、本機の故障ではありません。
- レーザーディスクでオーディオ・クロックリファレンスを選択している場合、静止画からふつうの再生にした時に、使用するテレビによっては数秒間画面の色が抜けたり色相が変化する場合があります。ビデオ・クロックリファレンスにすれば、このようなことはありません。



プレイボタン

ポーズボタン

ステップボタン

コマ送りするには

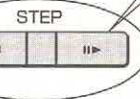
静止画中にステップボタンを押す。

- 再生中に押すと静止画になり、その後、押すごとにコマ送りになります。



押すごとに1コマずつ前へ戻ります。

押すごとに1コマずつ先へ進みます。



- 押し続けると連続してコマ送りされます。
- プレイボタンを押すとふつうの再生にもどります。

■レーザーディスクのCAVの場合

【フレーム・スティル/フィールド・スティル】

レーザーディスクのCAVディスクでは、リモコンのポーズボタン(II)を約2秒間押すことによってフレーム・スティルとフィールド・スティルを切り換えることができます。

それぞれ切り換えた時、画面に"Frame Still" (フレーム・スティル)、"Field Still" (フィールド・スティル) の表示が出ます。

フレーム・スティル：レーザーディスク本来の高画質の静止画です。

フィールド・スティル：動きがはやい場合でのブレの少ない静止画です。

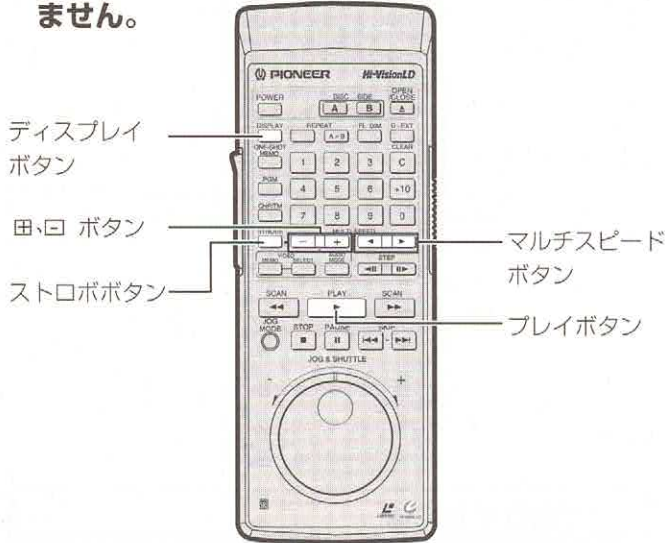
■レーザーディスクのCLVの場合

【フィールド・スティル】

レーザーディスクのCLVディスク再生時は、フィールド単位のコマ送り、戻しを可能としています。これにより、従来のLDプレーヤーでは、見ることができなかったすべてのフィールドを静止画として見ることができます。

画面を止めて 音声を聞く

■これらの機能は、ハイビジョンLDでは動作しません。

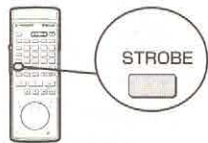


スティル&サウンド/ストロボモーション再生 (レーザーディスクのみ)

好みの画面を静止画にし、音声はふつうの再生で聞くことができます。また、この静止画を一定間隔で置き換えることができます。

1 再生中にストロボボタンを押す。

- 画面は静止しますが音声は再生を続けます。

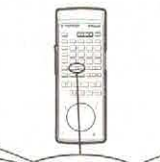


- プレイボタンを押すと、ふつうの再生にもどります。

2 田、回ボタンを押す。

- 静止画が一定間隔で置き換わります。
- 田、回ボタンをくり返し押すと7種類の置換間隔が選択できます。

置換間隔が長くなります。



置換間隔が短くなります。

田、回ボタン	画面上の表示	ストロボ間隔	田ボタン
↓	×1	1コマ置き	↑
	1/2	2コマ置き	
	1/4	4コマ置き	
	1/8	8コマ置き	
	1/16	16コマ置き	
	1/30	1秒置き	
	1/90	3秒置き	

通常再生の1秒間は30コマです。
電源投入時には「4コマ置き」が設定されます。
音声は通常再生のため、×2、×3等のモードはありません。

再生の速さや 向きを変える

マルチスピード再生 (レーザーディスクのみ)

再生の速さや向きを変えることができます。

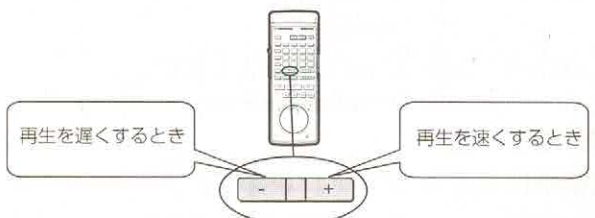
1 再生中にマルチスピードボタンを押す。

- 初めてマルチスピードボタンを押すと、自動的に1/4の速さが選ばれます。



- ディスクの始めに戻ったり、ディスクの終わりまでくると静止画になります。
- プレイボタンを押すと、ふつうの再生にもどります。

2 田、回ボタンを押す。



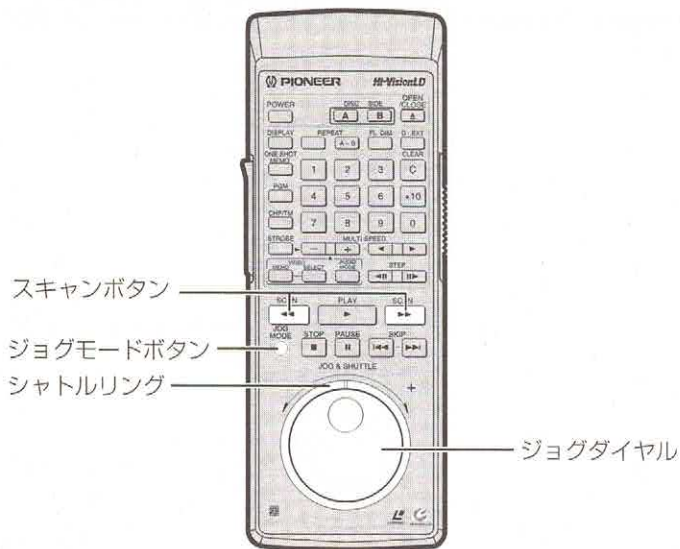
スピードの表示	速さ
×3	ふつうの再生の3倍の速さ
×2	ふつうの再生の2倍の速さ
×1	ふつうの再生の速さ
1/2	ふつうの再生の1/2の速さ
1/4	ふつうの再生の1/4の速さ
1/8	ふつうの再生の1/8の速さ
1/16	ふつうの再生の1/16の速さ
1/30	ふつうの再生の1/30の速さ
1/90	ふつうの再生の1/90の速さ

- マルチスピード再生中は音が聞こえません。

■速さを表示するには ディスプレイボタンを押す。

- 選んでいる速が表示されます。

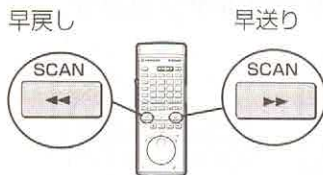




スピードスキャン

再生中にスキャンボタンを押す。

- 静止画やマルチスピード再生中からでも操作できます。
- 押している間、早送り、早戻しをします。



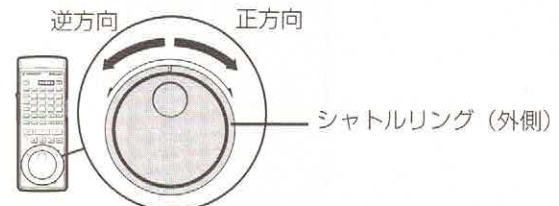
- 押すのをやめると、ふつうの再生にもどります。
- ボタンを押してから約2秒間はややゆっくりとスキャンし、その後高速でスキャンします。
- ディスクの始めまで戻ると、ふつうの再生が始まります。
- ディスクの終わりまで進むと、静止画になります。

ハイビジョンLDで、早送り・早戻しやジョグダイヤル/シャトルリングで特殊再生を行った後、ふつうの再生にすると数秒間音声途切れますが、これはMUSE方式固有の現象で本機の故障ではありません。

シャトルリングによる特殊再生

再生中にシャトルリングを回す。

- 静止画やマルチスピード再生中からでも操作できます。
- 回す向きと角度に応じて、およそ2倍速、5倍速、10倍速、早送り/早戻し(スキャン)で正・逆方向に再生できます。
- ハイビジョンLDとレーザーディスクでは速さがやや異なります。

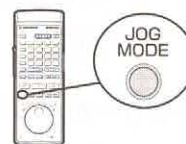


- 手をはなすと通常の再生にもどります。

ジョグダイヤルによる特殊再生

1 ジョグモードボタンを押す。

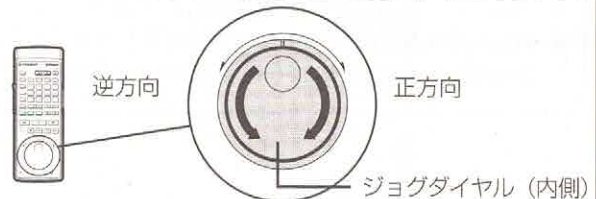
- ジョグモードボタンが点灯します。



- ジョグモードボタンが点灯中に、ジョグダイヤルの操作が可能です。

2 再生中にジョグダイヤルを回す。

- 静止画やマルチスピード再生中からでも操作できます。
- 回し続ける向きと速さに応じて変化します。ハイビジョンLDではコマ送り、ふつうの速度、2倍速で正・逆方向に再生できます。レーザーディスクでは、コマ送り、1/2倍速、ふつうの速度、2倍速で正・逆方向に再生できます。



- 回すのをやめると静止画になります。
- プレイボタン(▶)を押すと、ふつうの再生にもどります。

リモコンのジョグモードボタンはジョグダイヤルを使わないときはオフにする：

ジョグモードボタンは、ジョグダイヤルを操作しなくなってから約5分で自動的にオフになりますが(ジョグモードボタン消灯)、リモコンの電池の消耗を防ぐためジョグダイヤル操作後はジョグモードボタンを押して消灯させてください。

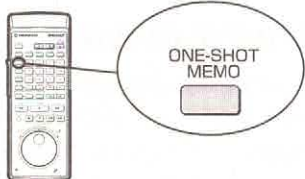
ワンショット
メモリーボタン

ワンショットメモリー

好きな画像をメモリーしておく、再生終了後に、メモリーした画像が映し出されます。再生を中止すると映し出されるため、ディスクをかけ替えるときなどに適しています。また、レーザーディスクでは、そのまま別のディスクを再生し、BGVとして楽しむことができます。

好きな画面でワンショットメモリーボタンを押す。

- ボタンを押した場所がメモリーされ、テレビ画面に“One-Shot”の表示が数秒間出ます。また、表示窓に“ONE-SHOT MEMORY”インジケーターが点滅します。



- 再生を終了するとメモリーした画面が出ます。
- 新たに再生を始めても、テレビ画面は変わりません。ワンショットメモリーボタンをもう1度押すと解除されます。

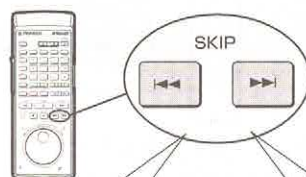
スキップボタン



スキップ

CHAPTERの始めに戻ったり、次のCHAPTERに進む操作です。CHAPTERはディスクに、記録されている区切りのことで、本の「章」にあたります。CHAPTERナンバーが記録されているディスクにはジャケットに表示があります。

再生中にスキップボタンを押す。

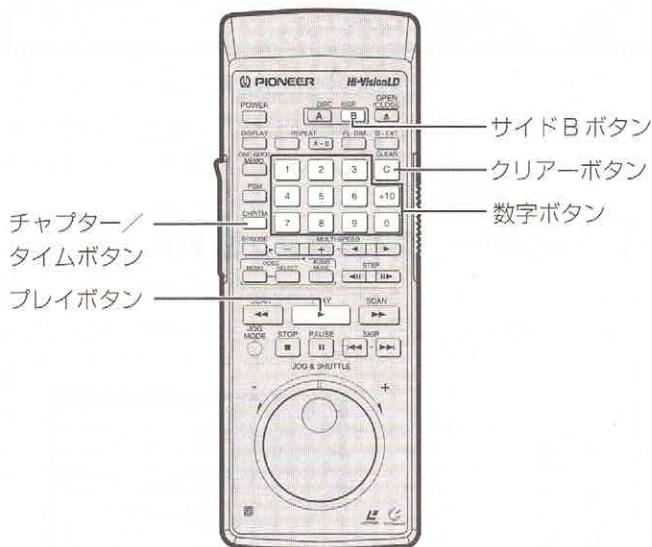


1回押すと現在のCHAPTERの始めに戻る。画像が出る前に押すと、前のCHAPTER、その前のCHAPTERへ戻り再生する。

押すたびに次のCHAPTERに進み再生を始める。

- ワンショットメモリーでは、秒の記録されていないディスクでは全く違う画像が出る場合があります。
- ワンショットメモリー画像が映し出されている時は、テレビ画面には文字の表示はしません。

- CHAPTERの記録されていないディスクではスキップできません。

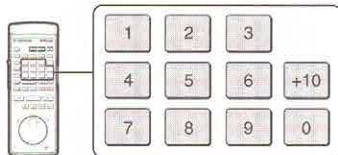


ダイレクトサーチ

チャプターはディスクに、記録されている区切りのことで、本の「章」にあたります。チャプターナンバーが記録されているディスクにはジャケットに表示があります。

見たいチャプターナンバーの数字ボタンを押す。

- 指定したチャプターから再生を始めます。



- チャプターナンバーが10以上のときは **+10** を使います。
(例) 17のとき: **+10** → **7**
30のとき: **+10** → **+10** → **+10** → **0**
- 番号を押しまちがえたら、正しい数字ボタンを続けて押します。

B面を指定するには：

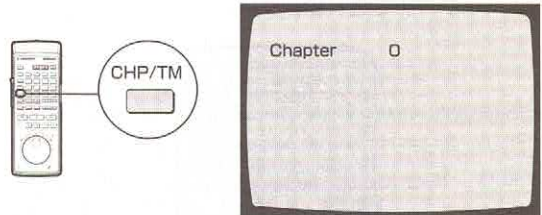
サイドBボタンを押してから数字ボタンを押します。

- TOC付きディスクの場合、ディスクに記録されている以上のチャプターナンバーは指定できません。
- TOCのないディスクの場合、ディスクに記録されている以上のチャプターを指定すると、ディスクの終わりで静止画になります。(“0”を指定すると、ディスクの始めから再生します。)
- チャプターが記録されていないディスクでは、ダイレクトサーチやノーマルサーチはできません。再生中の画面にはフレームまたはタイムナンバーしか表示されません。

ノーマルサーチ

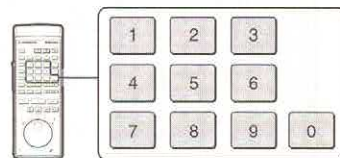
1 チャプター/タイムボタンを押す。

- チャプター表示にします。
- レーザーディスク再生中は2回、ハイビジョンLD再生中は3回押しと、画面にチャプターの表示が出ます。



2 数字ボタンを押す。

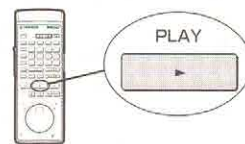
- 見たいチャプターナンバーの数字ボタンを押します。
- チャプターナンバーが10以上(2桁)のときは、10の位に続けて1の位の数字ボタンを押してください。



- +10** ボタンは使えません。
- 押しまちがえたときはクリアーボタンを押してから、正しい数字を押してください。

3 プレイボタンを押す。

- 指定したチャプターをサーチし、静止画再生になります。



- もう一度プレイボタンを押すと、ふつうの再生が始まります。

サーチをやめるには：

サーチ中にクリアーボタンを押します。

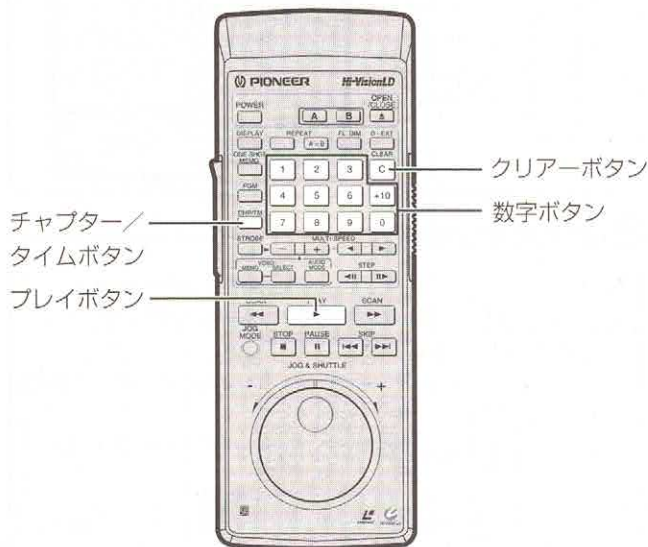
現在のチャプターやフレームナンバー、タイムナンバーを知るには：

表示窓を見ます。リモコンのディスプレイボタンを押して、画面に表示することもできます。

指定したフレームから再生する

■レーザーディスクの長時間ディスク (CLV) は操作できません。

- ハイビジョンLDでは、標準ディスク (CAV)、長時間ディスク (CLV) どちらのディスクでもフレームナンバーサーチできます。
- レーザーディスクでは、標準ディスク (CAV) のみフレームナンバーサーチできます。

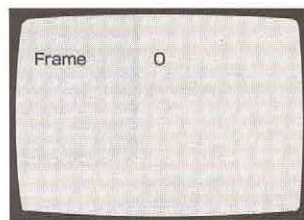
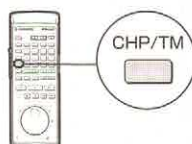


フレームナンバーサーチ

フレームとは、CAVに録画されている画像の1枚1枚のことです。フレームナンバーはこれらの画像の最初の1枚から最後の1枚までを、通しナンバーで記録した番号をいいます。フレームナンバーを指定して見たい場面を探します。

1 チャプター/タイムボタンを押す。

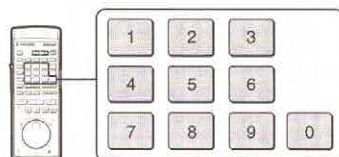
- フレーム表示になるまでくり返して押します。
- 一度再生して、プレーヤーがディスクの種類を判別しないと (その後、ストップしても可)、フレーム表示になりません。



- レーザーディスク (CAVディスクのみ) では押すごとにフレームとチャプターの表示をくり返します。ハイビジョンLDでは2回押すとフレーム表示になります。

2 数字ボタンを押す。

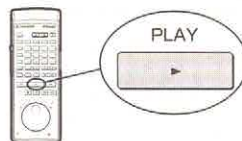
- 見たいフレームナンバーの上位桁から、数字ボタンを順番に押してください。



- **+10** ボタンは使えません。
- 押しまちがえたときはクリアーボタンを押してから、正しい数字を押してください。

3 プレイボタンを押す。

- 指定したフレームをサーチし、静止画再生になります。



- もう一度プレイボタンを押すと、ふつうの再生が始まります。

フレームサーチをやめるには：
サーチ中にクリアーボタンを押します。

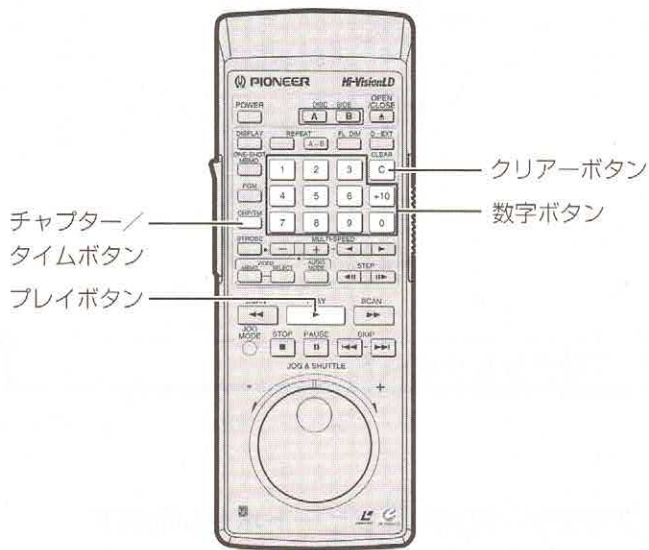
現在のチャプターとフレームナンバーを知るには：
表示窓を見ます。リモコンのディスプレイボタンを押して、これらのナンバーを画面に表示することもできます。

- ディスクに記録されている以上のフレームナンバーをサーチすると、ディスクの終わりで静止画になります。(“0”を指定するとディスクの始めで静止画になります。)

指定したタイムナンバーから再生する

■レーザーディスクの標準ディスク (CAV) は操作できません。

- ハイビジョンLDでは、標準ディスク (CAV)、長時間ディスク (CLV) どちらのディスクでもタイムナンバーサーチできます。
- レーザーディスクでは、長時間ディスク (CLV) のみタイムナンバーサーチできます。

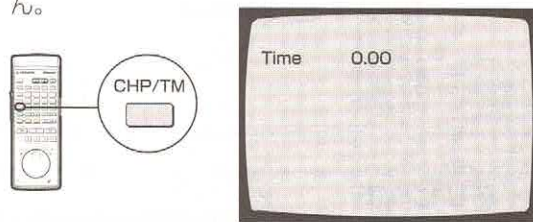


タイムナンバーサーチ

タイムナンバーとは、CLVに記録されている再生経過時間のことです。
タイムナンバーを指定して、見たい場面を探します。

1 チャプター／タイムボタンを押す。

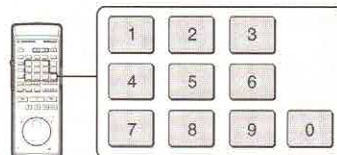
- タイム表示になるまでくり返して押します。
- 一度再生して、プレーヤーがディスクの種類を判別しないと (その後、ストップしても可)、タイム表示になりません。



- レーザーディスク (CLVディスクのみ) では押すごとにタイムとチャプターの表示をくり返します。
ハイビジョンLDでは1回押すとタイム表示になります。

2 数字ボタンを押す。

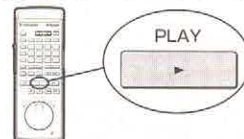
- 見たいタイムナンバーを分から順番に数字ボタンを押してください。



- 秒単位で記録されているディスクは4桁、秒単位が記録されていない (分のみ) ディスクは2桁の入力になります。
- [+10]** ボタンは使えません。
- 押しまちがえたときはクリアーボタンを押してから、正しい数字を押してください。

3 プレイボタンを押す。

- 指定したタイムナンバーをサーチし、静止画再生になります。



- もう一度プレイボタンを押すと、ふつうの再生が始まります。

タイムナンバーサーチをやめるには：
サーチ中にクリアーボタンを押します。

- 秒の記録されていないディスクでは分 (2ケタ) で指定してください。
- ディスクに記録されている以上のタイムナンバーをサーチすると、ディスクの終わりで静止画になります。

現在のチャプターとタイムナンバーを知るには：

表示窓を見ます。リモコンのディスプレイボタンを押して、これらのナンバーを画面に表示することもできます。

注
意
名
称
接
続
基
本
選
択
応
用
他

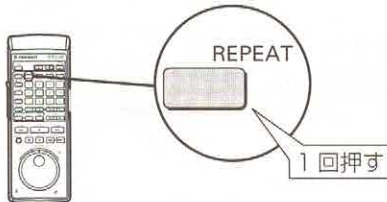
くり返し再生

チャプターリピート

再生中のチャプターをくり返し再生します。

再生中にリピートボタンを1回押す。

- 「Repeat Chapter」が画面に表示され、再生中のチャプターの終わりまでくると、そのチャプターの始めから、くり返し再生します。

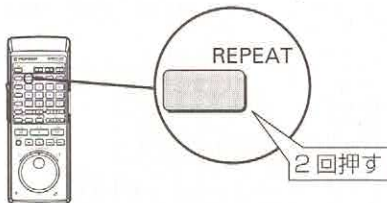


サイドリピート

再生中のディスクの片面をくり返し再生します。

再生中にリピートボタンを2回押す。

- 「Repeat Side-A (B)」が画面に表示され、再生中の面の終わりまでくると、始めから、くり返し再生します。

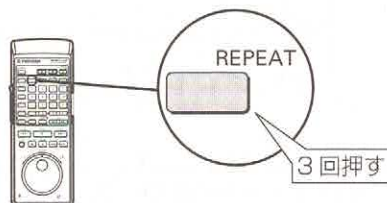


両面リピート

再生中のディスクの両面をくり返し再生します。

再生中にリピートボタンを3回押す。

- 「Repeat ALL」が画面に表示され、B面の終わりまでくると、A面の始めから、くり返し再生します。

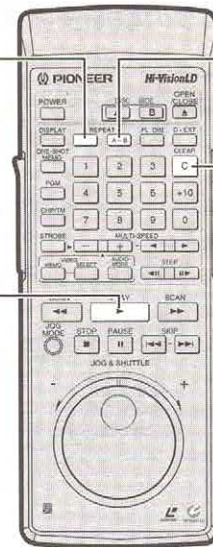


リピートボタン

リピートA-B
ボタン

クリアーボタン

プレイボタン

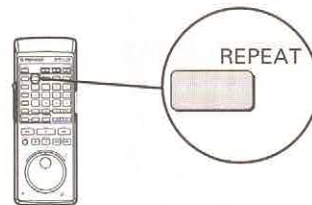


プログラムリピート

プログラムしたチャプター (30 ページ参照) をくり返し再生します。

プログラム再生中にリピートボタンを押す。

- 「Repeat Program」が画面に表示され、プログラム再生をくり返します。



チャプターナンバーのないディスクでは：

チャプターリピートはできません。このようなディスクでは、リピートボタンを1回押すとサイドリピートになります。

リピート再生から抜け出すには：

クリアーボタンを押します、リピートモードは解除されますが、再生はそのまま続きます。

注
意

名
称

接
続

基
本

選
択

応
用

他

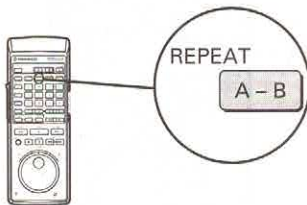
メモリーリピート

好みの部分をメモリーして、もう一度再生します。

1 再生中に好みのポイントでリピート

A-B ボタンを押す。

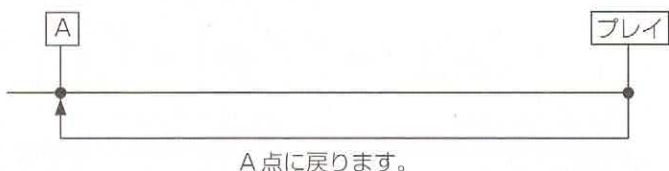
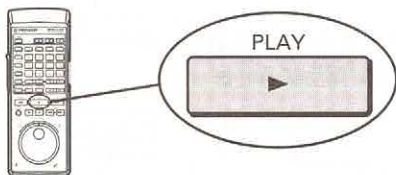
- 「Memory」が画面に表示され、ボタンを押したポイント（A点）がメモリーされ、再生を続けます。



2 メモリーポイントに戻るときに

プレイボタンを押す。

- 「Repeat Memory」が画面に表示され、A点に戻って再生を始めます。



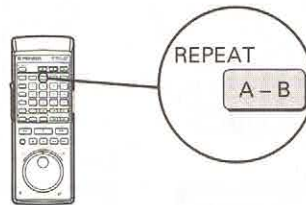
A-Bリピート

指定区間（A-B）をくり返し再生します。

1 再生中に、くり返したい区間の始め

（A点）でリピートA-Bボタンを押す。

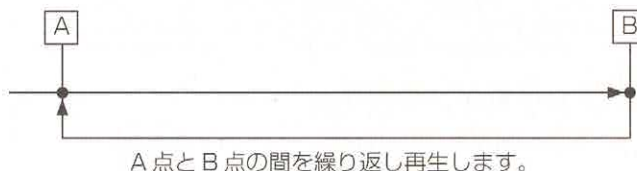
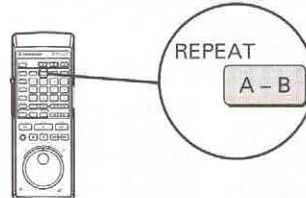
- 「Memory」が表示され、ボタンを押したポイント（A点）がメモリーされ、再生を続けます。



2 くり返したい区間の終わり（B点）で

リピートA-Bボタンを押す。

- 「Repeat A-B」が画面に表示され、A点に戻って再生を始め、A点とB点の間をくり返し再生します。



メモリーリピートでA点を指定しなおすには：
クリアボタンを押して、メモリーモードから抜け、再度メモリーリピート操作してください。

現在の再生モードを確認するには：
リモコンのディスプレイボタンを押して、再生モードを画面に表示することができます。

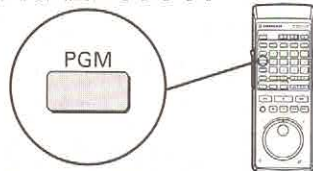
見たいチャプターだけを再生する

プログラム再生

見たいチャプターだけを好きな順序で再生できます。最大24のチャプターをメモリーできます。

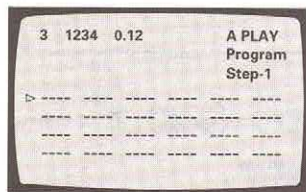
1 プログラムボタンを押す。

- プログラム入力画面になります。

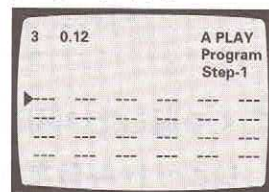


■プログラム入力画面

ハイビジョンLD



レーザーディスク

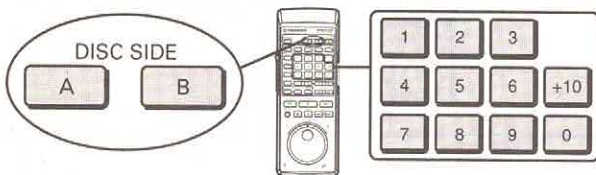


カーソル (▷ または ▶ マーク) が入力する場所を示します。

2 サイドAまたはBボタンを押してから

数字ボタンを押す。

- 再生したい面 (A/B) とチャプター番号を順番に入力します。



- ディスクに記録されていないチャプターをプログラムしないでください。プログラムを実行しない場合があります。

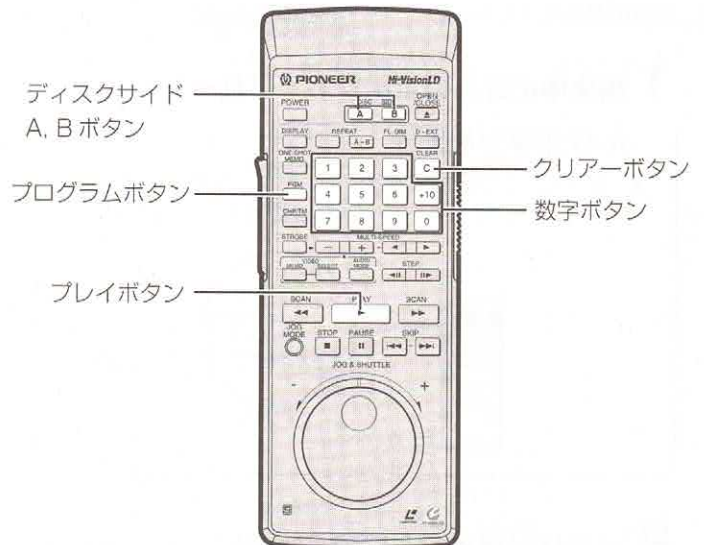
3 プレイボタンを押す。

- 入力した順番に再生します。

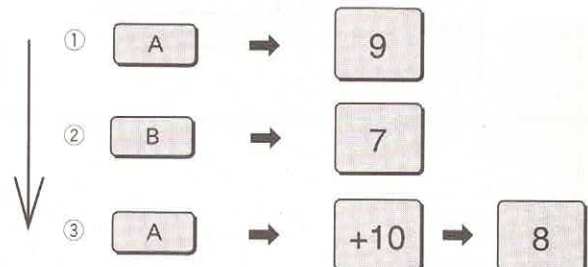


- メモリーした最後のチャプターを再生し終わるとストップします。
- 入力したチャプター番号は、そのままメモリーされています。

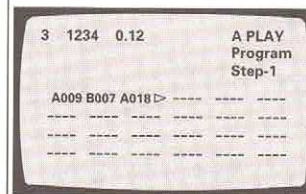
- プログラム再生中にシャトルリングで早送り、早戻しをすると、プログラムされていないチャプターに移りますが、シャトルリングを元に戻すと次にプログラムされているチャプターを再生します。シャトルリングを反時計方向に回した場合は、早戻しを始める直前に再生していたチャプターの始めに戻ってプログラム再生を続けます。
- レーザーディスクでは、プログラム再生中にマルチスピードボタン (▶) を押すとマルチスピードで再生になり、次にプログラムされているチャプターもマルチスピードで再生します。マルチスピードボタン (◀) を押すと、逆方向のマルチスピード再生になり、再生中のチャプターの始めまで戻ります。その後ふつうの再生になり、プログラム再生を行います。



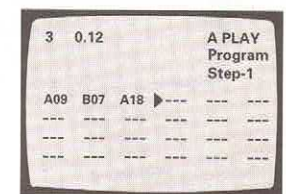
例：A面チャプター9、B面チャプター7、A面チャプター18の順で再生するとき



ハイビジョンLD



レーザーディスク

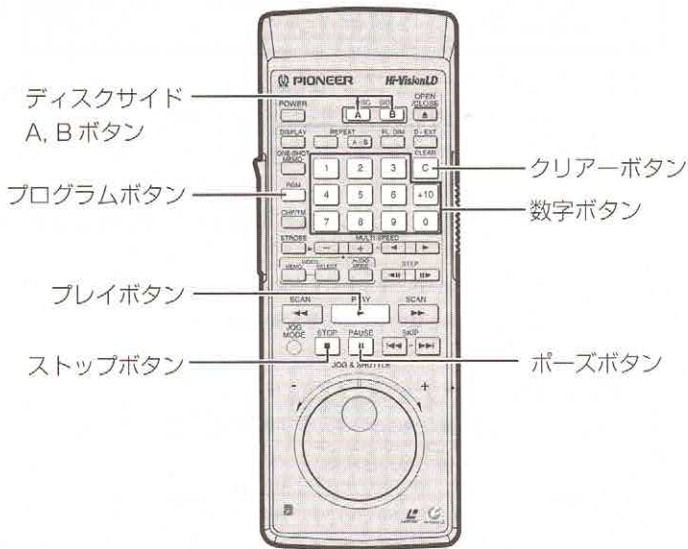


プログラム再生を途中でやめるとき：

- ストップボタン (■) またはオープン/クローズボタン (▲) を押す。またはリモコンのクリアーボタンを押す。

前または次のプログラムに移るには：

- スキップボタン (◀◀, ▶▶) を押す。



■プログラム内容の確認

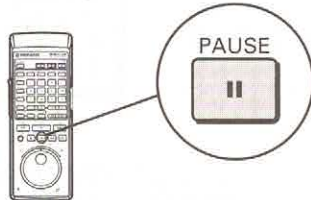
プログラム再生中や、プログラムの再生が終わった後に、プログラムボタンを押すとプログラムした内容が画面に表示されます。もう一度プログラムボタンを押すと、表示が消えます。

■一時停止のプログラム

一時停止を入力したステップで一時停止します。プレイボタン(▶)かポーズボタン(⏸)を押すとプログラム再生を再開します。

手順2でポーズボタンを押す。

- 手順2で、一時停止させたい所で、数字ボタンの代わりにポーズボタン(⏸)を押します。
- 画面には「⏸」が表示されます。



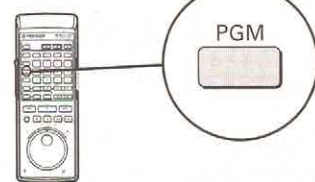
- ポーズも1ステップとして数えますので、プログラムできるチャンスはその分減少します。
- プログラムの1番目(ステップ1)や2回続けてポーズのプログラムはできません。
- 最後のステップにはポーズのプログラムはできません。

■プログラム内容の変更

プログラムしたチャプター番号やポーズを変更や削除することができます。

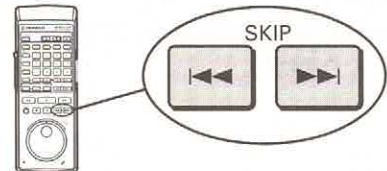
1 プログラムボタンを押す。

- プログラム入力画面になります。



2 スキップボタンを押す。

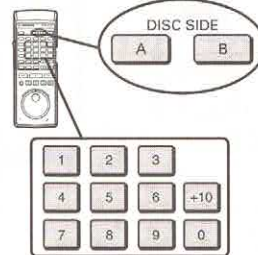
- スキップボタン(⏮, ⏭)を押すと、画面上のカーソル(▷または▶マーク)が移動します。変更または削除するチャプター番号やポーズ(⏸)の左側にカーソルを置きます。



[変更するとき]

3 サイドAまたはBボタンを押してから数字ボタンを押す。

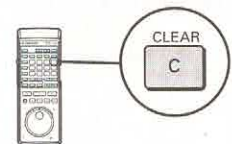
- 新しい面(A/B)とチャプター番号を入力します。



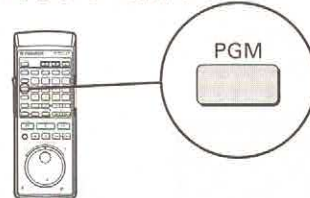
[削除するとき]

3 クリアーボタンを押す。

- そのプログラムステップは削除されます。



4 プログラムボタンを押す。

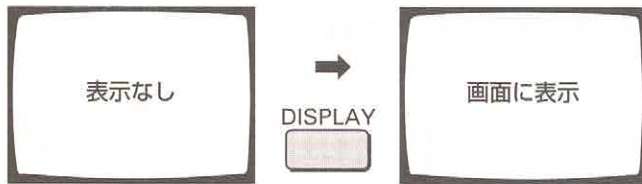


- 変更終了後にプレイボタンを押すと、新しいプログラムでプログラムの最初から再生します。
- 現在再生中のチャプターの変更・削除はできません。

プログラムの内容を消すには：

- ディスクテーブルを開ける。
- 停止状態でクリアーボタンを押す。

リモコンのディスプレイボタンで、現在行っている再生モード、チャプターナンバーや再生時間などを画面に表示できます。



時間表示について

ディスプレイボタンを押すたびに次のように変わります。

ハイビジョンLD再生のとき

ハイビジョンLDでは、標準ディスク (CAV) でも長時間ディスク (CLV) でも表示方法は同じです。

- 画面表示をオフした時、再生モード、再生時間等がうすく残る場合があります。これはMUSE方式固有の現象で本機の故障ではありません。

レーザーディスク再生のとき

TOC付きレーザーディスクでは…

タイム/フレームナンバー(ディスクの初めからの経過時間とその時間でのフレームナンバー) → Remain Time ALL (再生中のところからディスクの最後までまでの残り再生時間) → Total Time (ディスクの初めから終わりまでの総再生時間) → 表示が消える。

- 標準ディスク (CAV) ではフレームナンバーの次に Disc Time (ディスクの初めからの再生時間) を表示します。

TOCなしレーザーディスクでは…

タイム/フレームナンバー(ディスクの初めからの経過時間/フレームナンバー) → 表示が消える。

何も操作せずに長時間 (約 80 分) 画面表示をしたままにしておくと、自動的に画面表示は消えます。いづれかのボタンを押すと、再び画面表示します。

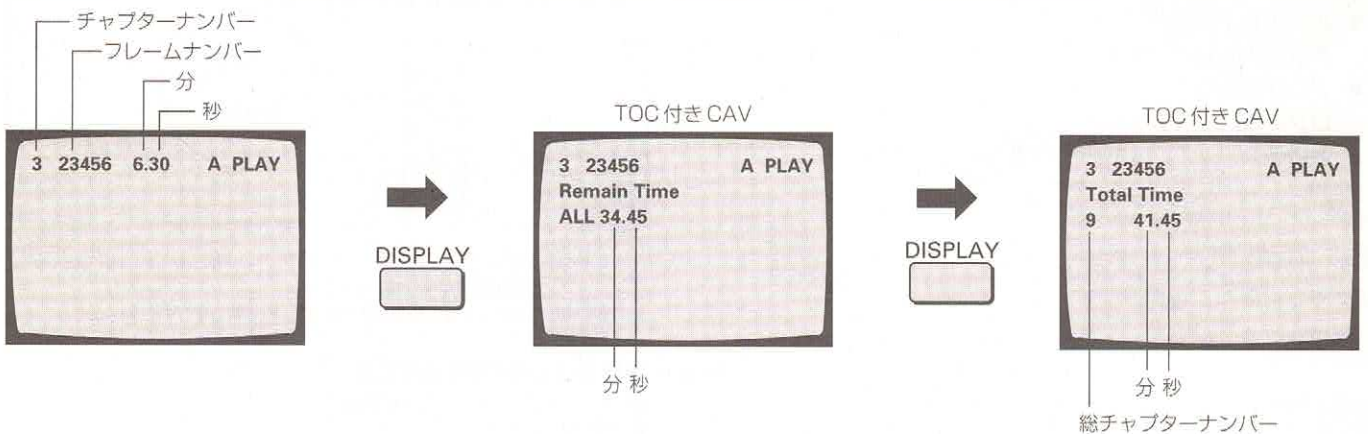
ハイビジョンLD

CLV (タイム・フレームナンバー) → ディスクの終わりまでの残り再生時間 → 総再生時間



ハイビジョンLD

CAV (タイム・フレームナンバー) → ディスクの終わりまでの残り再生時間 → 総再生時間

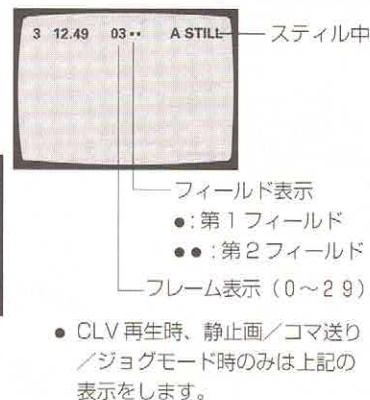


レーザーディスク

CLV (タイムナンバー) → ディスクの終わりまでの残り再生時間 → 総再生時間

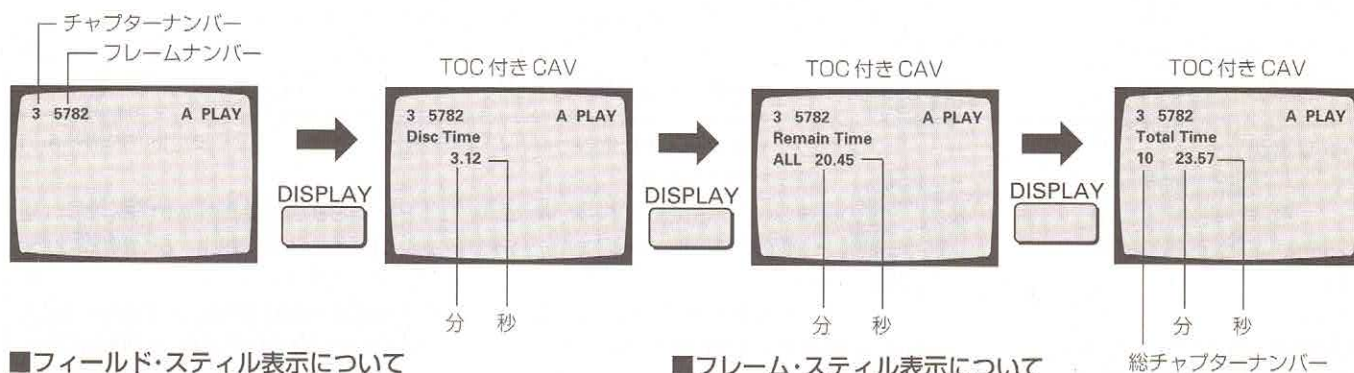


■フィールド・スティル表示について

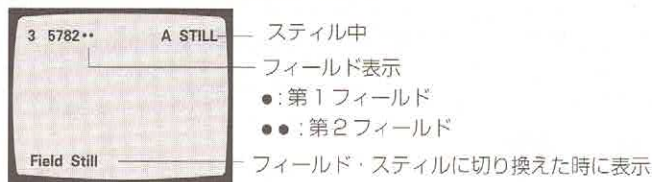


レーザーディスク

CAV (フレームナンバー) → ディスクの最初からの経過時間 → ディスクの終わりまでの残り再生時間 → 総再生時間



■フィールド・スティル表示について



■フレーム・スティル表示について



- CAV再生時、静止画/コマ送り/ジョグモード時のみは上記の表示をします。

その他の表示と内容

点灯・点滅	内容	点灯・点滅	内容
OPEN	ディスクテーブル開	Repeat ALL	両面リピート
CLOSE	ディスクテーブル閉	Repeat Side-A (B)	サイドリピート
STOP	停止	Repeat Chapter	チャプターリピート
PLAY	再生	Repeat Program	プログラムリピート
PAUSE	一時停止	Repeat OFF	リピートオフ
STILL	静止画	Program	プログラムモード
Field Still	フィールド・スティル	Step-	プログラムステップ (番号)
Frame Still	フレーム・スティル	Last Memory	ラストメモリー
1/2、1/4...*	低速再生	A ▶ B	A面からB面へ反転
×2、×3*	高速再生	B ▶ A	B面からA面へ反転
A	A面の再生	PSC ON	ピクチャーストップ機能を働かせない
B	B面の再生	PSC OFF	ピクチャーストップ機能を働かせる
Repeat Memory	メモリーリピート		
Repeat A-B	A-Bリピート		

*レーザーディスク再生時のみ表示します。

チャプターナンバー	<p>ディスクをいくつかのセクションに区切り、番号づけしたナンバーです。本の“章”に相当します。このチャプターナンバーが記録されていれば、希望のセクションをすばやく見つけるチャプターサーチなどの操作ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ディスクによってはチャプターナンバーが記録されていないものもあります。
フレームナンバー	<p>CAV ディスクのすべてのフレームごとに記録された番号です。ハイビジョンLDは、CAV、CLVとも記録されています。希望のシーンをこのフレームナンバーで探すフレームサーチなどの操作ができます。</p>
タイムナンバー	<p>一般のLDでは、CLVディスク、またはTOC付きのCAVディスクに記録されています。ディスクの最初からの再生経過時間です。希望のシーンをタイムナンバーで探すタイムナンバーサーチなどの操作ができます。ハイビジョンLDではタイムナンバーは記録されていませんが、フレームナンバーを時間に変換して表示します。</p>
CAV方式	<p>ディスクのジャケット、またはレーベルに（標準ディスク／CAV）または（Standard play）と表示されています。</p> <p>ディスクの1周に1画面が記録されていて、一定回転（一定角速度：Constant Angular - Velocity）-1800rpm-で再生されます。静止画再生、マルチスピード再生などの特殊再生に適しています。再生時間は片面最大30分で（30cmディスク）最大54000フレームが記録され、それぞれのフレームにはフレームナンバーがついています。（再生時間はディスクの内容によって異なります。）</p>
CLV方式	<p>ディスクのジャケット、またはレーベルに（長時間ディスク／CLV）または（Extended play）と表示されています。</p> <p>一定の線速度（Constant Linear Velocity：CLV）で信号が記録されていて、内周（回転速度：一般のLDでは1800rpm、ハイビジョンLDでは2470rpm）から外周（回転速度：一般のLDでは600rpm、ハイビジョンLDでは935rpm）方向にディスクの回転速度を変えながら再生します。したがって、再生時間は片面最大60分（30cmディスク）と標準ディスクに比べて長くなっています。ディスクの最初からの経過時間に応じてタイムナンバーが記録されています。またハイビジョンLDでは、ディスクの最初からフレームナンバーが記録されていますがフレームを時間に変換して表示します。</p>
デジタル音声付き レーザーディスク	<p>ディスクのジャケット、またはレーベルにマークが表示されています。</p> <p style="text-align: center;">digital または digital SOUND</p> <p>アナログ信号に加えて、デジタル信号も合わせて記録されたディスクです。レーザーディスクの高品質の映像とデジタルサウンドが同時に楽しめます。デジタル、アナログの2種類の音声は異なった周波数帯域を利用してディスクに記録されます。</p>
デジタル音声付き レーザーディスク マルチオーディオディスク	<p>ディスクのジャケット、またはレーベルにマークが表示されています。</p> <p style="text-align: center;">digital と MULTI AUDIO または digital SOUND MULTI AUDIO</p> <p>デジタル音声、アナログ音声それぞれに異なった内容の音声が記録されています。デジタル音声とアナログ音声を切り換えて、それぞれの音声をお楽しみいただけます。</p>

- 本機は、ハイビジョン帯域圧縮方式であるMUSE方式と日本のテレビ方式であるNTSC方式に適合しています。他のテレビ方式（PAL、SECAM）表示のディスクは使用できません。
- ディスクを無断で複製、放送、上映、有線放送、公開演奏、レンタル（有償、無償を問わず）することは禁じられています。

故障かな?…と思ったらチェックしてみてください。ちょっとした操作ミスが故障と思われがちです。また、プレーヤー以外の原因も考えられます。ご使用のテレビやステレオコンポーネント、および同時に使用している電気器具も合わせてお調べください。下記の項目をチェックしても直らない場合はお買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。

- 静電気等、外部からの影響により本機が正常に動作しない場合があります。このような時は電源コードを1度抜いて約1分程度おいてから再度差し込むことにより正常に動作します。

症 状	考えられる原因	処 置
1. ディスクテーブルが出てこない。	● 電源が入っていない。	● 電源プラグをコンセントに差し込み、電源スイッチをオンにする。
2. ディスクテーブルを閉めても出てきてしまう。	● ディスクが極端に汚れている。 ● ディスクがディスクテーブルに正しくセットされていない。 ● プレーヤーの内部が結露している。 ● ディスクが極端に変形（そりなど）している。	● ディスクをきれいにする。 ⇒ 別売りのディスククリーニングセットJV-D11をご使用ください。 ● 溝に合わせて正しくセットする。 ● ディスクを取り出し、電源を入れたまま約1～2時間（水滴が消えるまで）待って使用する。 ● 変形したディスクは使わない。
3. リモコン操作ができない。	● 後面パネルのコントロール入力端子を使用している。 ● プレーヤーと離れすぎている。または、リモコン受光部との角度がありすぎる。 ● 電池が消耗している。 ● プレーヤーのリモコン受光部とリモコンの間に障害物がある。	● コントロール入力端子をつないでいる機器のリモコン受光部に向けて操作する。 ● リモコン受光部からの距離は約7m、角度は約30°の範囲で操作する。 ⇒ 操作できる範囲が極端にせまくなった場合には、リモコンの電池を取り替えてください。 ● 電池を交換する。 ⇒ 2個とも新しいものと交換してください。 ● 障害物を取り除くかリモコン操作の場所を変える。
4. リモコン操作をするとテレビが誤動作する。	● ワイヤレスリモコン機能を持つテレビの一部には、本機のリモコン操作により誤動作するものがある。	● テレビと本機を離すか、ディスク再生中はテレビのリモコン受光部に覆いなどをしてリモコンの信号をテレビが受けないようにする。
5. ディスクは回転しているが映像が出ない。または映像は出るが画質が悪く乱れる。	● テレビ（カラーモニター）の電源が入っていない。 ● 接続が間違っている。 ● 接続プラグの差し込みが不十分、または外れている。	● 電源を入れる。 ● 正しく接続する。 ● しっかりと差し込む。
6. 画面が上下に流れる。（垂直同期が乱れる。）	● 再生中、暗い場面から明るい場面へと切り換わる時など、一瞬画面が上下に流れることがある。	● テレビの垂直同期を調整する。
7. ディスクによって画質が悪い。映像が乱れる。	● ディスクが極端に汚れている。 ● ディスクが極端に変形（そりなど）している。	● ディスクをきれいにする。 ⇒ 別売りのディスククリーニングセットJV-D11をご使用ください。 ● 変形したディスクは使わない。

故障？ちょっと調べてください

症 状	考えられる原因	考えられる原因
8. 音声か波打ったようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ● ◻×マークのついていないディスクをCXシステムオンにして再生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● CXをオフにする。(16ページ)
9. 音声かでない。	<ul style="list-style-type: none"> ● マルチスピード再生、静止画・コマ送り再生では音かでない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 音を聞くときにはプレイ/スティルボタン (▶/▶◀) を押して通常再生にする。
10. 静止画の一部かブレる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 標準ディスクでも動きの激しい場面では静止画の一部かブレることがあります。プレーヤーの故障やディスクの不良ではありません。 	
11. チャプタースキップ、チャプタープログラム、チャプターナンバーサーチかできない。	<ul style="list-style-type: none"> ● チャプターナンバーの記録されていないディスクを再生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● チャプターナンバーの記録されていないディスクでは、チャプターを利用した機能は働かません。
12. サーチ時間が長い。(約40秒以上かかる。)	<ul style="list-style-type: none"> ● コードの読み取りに時間のかかるディスクがある。(故障ではありません。) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 極端に時間がかかる場合には、リモコンのクリアボタンを押す。 ⇒ この場合、目標のサーチ場面とわずかにズレることがあります。
13. ディスクによってスタート時間の長いものがある。またはスタートしない。	<ul style="list-style-type: none"> ● サブコードの読み取りに誤りがある場合がある。(故障ではありません。) 	<ul style="list-style-type: none"> ● ストップボタン (■) を押して再生をやめ、プレイ/スティルボタン (▶/▶◀) を押してもう1度再生を始める。1回で再生が始まらないときは、何回か繰り返す。
14. A-BリピートでA点に戻るのか遅い。	<ul style="list-style-type: none"> ● 上記12と同様。 	<ul style="list-style-type: none"> ● リモコンのクリアボタンを押すとA点はほぼ同じ場面か出ますが、A-Bリピートは解除されます。
15. タイムナンバーサーチのとき指定したナンバーと違う場面をサーチする。	<ul style="list-style-type: none"> ● リモコンのディスプレイボタンを押して「秒」まで記録されたディスクか「分」までのディスクかを確認し、操作し直す。 (例) 12分サーチ 秒なしディスク: <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="2"/> <input type="text" value="0"/> <input type="text" value="0"/> プレイ 秒ありディスク: <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="2"/> <input type="text" value="0"/> <input type="text" value="0"/> プレイ の手順で操作する。 	

自己診断機能について

本機は自己診断機能をもっています。

本機をご使用中に異常を検出すると、本体表示部およびTV画面に以下の表示（サービス番号）を自動的に表示します。まず、「対応のしかた」に従ってください。

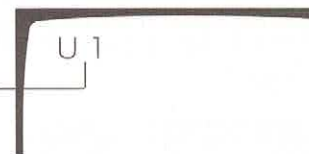
本体表示部

サービス番号



TV画面

サービス番号



サービス番号	本機の状態	対応のしかた
U1 U2	ディスクが正しくセットされていないと考えられます。 ディスクが正しくセットされている場合は、ディスクの汚れが原因と考えられます。	<ul style="list-style-type: none"> ● ディスクをトレイの溝にそってセットしなおしてください。 ● ディスクを柔らかい布で拭いてください。 一度ディスクテーブルを開けてから、もう一度プレイ/スティルボタン (▶ / ▶◀) を押してください。
F5	ディスクが2枚重ねでセットされていると考えられます。 ディスクが1枚セットされている場合は、ディスクの汚れが原因と考えられます。	<ul style="list-style-type: none"> ● ディスクを1枚だけディスクにセットしてください。 ● ディスクを柔らかい布で拭いてください。
P2 L3 E4	(P、F、L、E、C以降の数字は本機の状態によって変わります。)	<ul style="list-style-type: none"> ● 一度ディスクテーブルを開けてから、もう一度プレイ/スティルボタン (▶ / ▶◀) を押してください。 ● 再度同じ表示がでた場合は異常と考えられます。 修理を依頼されるときに、本体表示部またはTV画面の表示（サービス番号）をお知らせください。 (例えば「E4」と表示しているときは、「サービス番号、E4」とお知らせください。)
H0 H1 H2	異常と思われます。	<ul style="list-style-type: none"> ● 修理を依頼されるときに、本体表示部またはTV画面の表示（サービス番号）をお知らせください。 (例えば「H1」と表示しているときは、「サービス番号、H1」とお知らせください。)

注意

名称

接続

基本

選択

応用

他

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後最低 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談は

お買い上げの販売店または、最寄りの当社サービスステーションをご利用ください。

所在地、電話番号は別添の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるときは

35～37 ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、ご使用を中止し、サービス番号（エラー表示）が表示されているときは、それをメモして、必ず電源プラグを抜いてから、お買上の販売店または、お近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。

お客様メモ

- おぼえのため記入されますと便利です。

ご購入店名	住所 電話番号	お近くの ご相談窓口	住所 電話番号
ご購入年月日	年 月 日	型番	この機種は HLD-X9 です。

連絡していただきたい内容について：

- ・品名 ハイビジョンLD/レーザーディスクプレーヤー
- ・品番 HLD-X9
- ・お買上げ日
- ・故障の状況「できるだけ具体的に」
- ・ご住所「付近の目印も合わせてお知らせください」
- ・お名前
- ・電話番号
- ・訪問ご希望日

保証期間中は：

修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理致します。

保証期間が過ぎているときは：

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

お客様ご相談窓口（修理に関しては別添『ご相談窓口・修理窓口のご案内』）参照

お客様相談センター	☎ 03-3491-8181		
技術相談窓口	◎札幌 ☎ 011-644-4779	◎大阪	☎ 06-353-3705
	◎仙台 ☎ 022-375-4417	◎広島	☎ 082-228-2239
	◎名古屋 ☎ 052-532-1141	◎福岡	☎ 092-441-8076

愛情点検



長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか

- ・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
- ・電源コードにさけめやひび割れがある。
- ・電気が入ったり切れたりする。
- ・本体から異常な音、熱、臭いがする。



すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店または当社サービスステーションに点検（有料）をご依頼ください。

一般

形式	MUSE方式ハイビジョンLDシステム およびレーザーディスクシステム
使用レーザー	半導体レーザー：波長670 nm
電源	AC100V、50/60 Hz
消費電力	58 W
重量	17 kg
外形寸法	440 (幅) × 435 (奥行) × 180 (高さ) mm
許容動作温度	+5℃～+35℃
許容動作湿度	85%以下 (結露のないこと)

MUSE出力<2系統>

出力レベル	0.4 Vp-p (75 Ω)
出力端子	ピンジャック

ビデオ出力<2系統>

出力レベル	1 Vp-p (75 Ω 負荷時、同期負)
出力端子	ピンジャック

S映像出力<2系統>

Y出力レベル	1 Vp-p (75 Ω)
C出力レベル	286 mVp-p (75 Ω)
出力端子	S端子

オーディオ出力<2系統>

出力レベル	
アナログ音声出力	200 mVrms (1 kHz、40%)
デジタル音声出力	200 mVrms (1 kHz、-20 dB)
チャンネル数	2チャンネル

その他の端子

AC-3・RF出力	ピンジャック
コントロール入力/出力	ミニジャック
光デジタル出力	TOSリンク
同軸デジタル出力	ピンジャック

付属品

リモコン	1
単4形乾電池 (R03)	2
オーディオコード	1
ビデオコード	2
S端子ケーブル	1
取扱説明書、保証書、安全上のご注意、 ご相談口・修理窓口のご案内	各1

- 本機の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

注意

名称

接続

基本

選択

応用

他

ハイビジョンLD / レーザーディスク プレーヤー

HLD-X9

取扱説明書

Hi-Vision System

MUSE / NTSC

LaserDisc

PIONEER 音響映像機器保証書控

販売店様控
出張修理

機種	HLD-X9	製造番号	1004275
お名前	お名前	様	
お客様	ご住所 〒	
様	電話番号 ()		
お買上げ日		取扱販売店名・住所・電話番号	
年 月 日			
保証期間 (お買上げ日より)			
本体	1年		

●お客様へお願い
お手数ですが、ご住所、お名前、電話番号をわかりやすくご記入いただき、お買上げの販売店へお渡しください。

●ご販売店様へ
お買上げ日、貴店名、住所、電話番号を記入のうえ、保証書をお客様へお渡しください。販売店控は貴店に保管いただき、メーカー控はメーカーへお渡しください。

パイオニク株式会社
〒113 東京都台東区目黒1-4-1
お問合せ先：
お客様相談センター
(03)3491-8181

〈無料修理規定〉

1. 取扱説明書、本体取付ラベル等の注意に記された使用状態で故障した場合には、お買上げの販売店またはパイオニアサービスステーションが無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理をお受けになる場合には、お買上げの販売店または別紙のパイオニアサービスステーションにご依頼ください。この商品は出張修理いたしますので、その際には本書をご提示ください。
3. ご転居、ご購入品等で本保証書に記入してあるお買上げの販売店に修理が依頼できない場合には、別紙サービス窓口・ご相談窓口をこのうえ、お近くのサービスステーションへご相談ください。
4. 保証期間内でも次の場合には有料修理となります。
 - (イ) 使用上の誤りまたは不当な修理や改造による故障および損傷
 - (ロ) お買上げ後の取付場所の移動、落下等による故障および損傷
 - (ハ) 火災、地震、水害、落雷その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧等による故障および損傷
 - (ニ) 一般家庭用以外（例えば、業務用の長時間使用、車載（カーステレオ等車載用製品を除く）・船舶への搭載等）に使用された場合の故障および損傷
- ※ 消耗品（各部ゴム、電池、レコード針等）の交換
- (イ) 本書の提示がない場合
- (ロ) 本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合ある

いは文字を書きかえられた場合

5. 故障の原因が本製品以外の他社製品にある場合

This warranty is valid only in Japan.

6. 本書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

修理メモ

--

※ この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買上げの販売店または別紙サービス窓口・ご相談窓口をご覧のうえ、お客様相談センターまたはお近くのインフォメーションセンターにお問合せください。

※ 保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは取扱説明書をご覧ください。